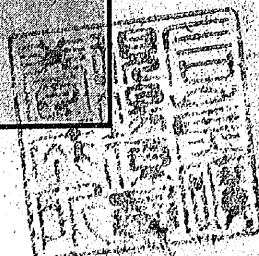


# 石炭鑛業 互助會報

第 六 二 卷 · 二 月 號

昭和十二年四月七日第三種郵便物認可（五月一日起）  
昭和十六年二月二十四日印刷本報昭和十六年二月二十八日發行

雜誌部  
第 228 號



石炭鑛業互助會發行

# 三井銀行

若松市本町五丁目

## 若松支店

電話自三八〇至三八二  
 振替 福岡二四五〇  
 番号 下關二八四二

### 目次

獨逸の經濟指導原理は日本古神道の法理に通ず……………	互助會石炭株式會社社長 山本平八……………(一)
聲明「喜ンデ働カウ」……………	石炭鐵業互助會長 中村幸八……………(四)
炭價問題の再檢討……………	福岡鐵山監督局長 中村幸八……………(四)
石炭増産と政策の矛盾……………	福岡地方鐵業聯合會會長 武内禮藏……………(五)
海運……………	互助會石炭株式會社 松尾三藏……………(九)
時局と炭業對策……………	互助會石炭株式會社 統制部調查課長 中村逸雄……………(一〇)
參考……………	
法……………	
彙報……………	
炭業日誌……………	
石炭鑛業權設定……………	
採掘鑛區異動……………	
鑛業權者移動……………	
石炭對策座談會……………	
本會記事……………	
編輯後記……………	

# 鑛業報國

行けよ鑛山銃後の線

鑛業へ我も興亞の戦士



福岡地方鑛業報國聯合會

## 獨逸の經濟指導原理は

### 日本古神道の法理に通ず

互助會石炭株式會社々々長 山本平八  
石炭鑛業互助會々々長



い思想でも何でも無い。日本の神ながら道を撰做したものに過ぎない。日本古神道の原理そのまゝを行かうといふのである。彼れ等の所謂民族社會主義は人間の個性を飽く迄尊重する、個人の能力を尊重し且つ要求する、自由を否定しない、否高邁なる自由の大原則に遵はんとするものであつて、我大和民族傳來の古神道の教がそれであることを注意せねばならぬ。極端なる個人主義に終始した民族が、此原理を發見し之れを國政運用の上に應用した事は寔に偉大なる發見であり、業蹟であらうけれども、神ながらの大和民族にとつては、此原理は神州生れながらの道であり、之れを行はんとするに困難を生ずるといふ事はない筈なのである。

昨十五年三月猶逸ハンブルグ東亞協會々々長ヘルフェリヒ氏が來朝した機會に、日本經濟聯盟主催で日本工業俱樂部に同氏を招聘して「獨逸に於ける經濟指導と能率増進」なる題下一場の講演を聴取した。

その講演中の説明の三四を拾つて見ると、

曰く「一人一人の人間は最早一切の物の考へ方及社會現象の中心ではなくなり、協會體といふ觀念がこれに代つた」

曰く「労働の新意義としてヒトラー總統は、資本が労働を創るのではなく、労働が資本を創るのだと喝破した。此労働は單に物質的要素としてのみでなく同時に精神的な原理として貴重な意義を有することになつたのである」

曰く「獨逸で發見した新しい經濟形式は屢々誤つて、計畫經濟の名を以て呼ばれてゐる。所謂計畫經濟は非個人的官僚的なものである。吾人の指導原理は左様なものではない、人間の個性は絶対に尊重するものである」

曰く「公益は私益に先んずといふことを忘れてはならぬ。人間の能力を尊重し、自由を尊重しても個人の私益には制限を附けるのである」

上記の様な言葉を拾ひ上げることが出来る、吾人は近世に於ける獨逸民族の驚くべき發展と、最近に於ける武運赫々たる所謂歐洲新秩序編成の統率者たらんとする其偉大な力を觀て、これに最大の敬意を表するに吝かでない、然しながら二千六百有二年皇統連綿君臣一體の精華を、中外に誇る我が大和民族が建國事業の大義を忘れて、此程度の原理を他國から學ばねばならぬに到つたことは、寔に民族の恥辱であり、遺憾此上ないこと、嘆ぜざるを得ないのである。況んや其經濟指導原理が必要であつた理由として擧げらるゝものは、國家自體が景氣喚起の爲め最大の註文主として現はれ、又多額の資本を動員せねばならなかつた事情が第一、更に獨逸の外國爲替保有状態が然らしめたことが第二であるといふに於て、專ら他動的刺戟に因つて餘義なく其處に到達したといふ事實を以て、吾々は之れを如何に觀るべきか、彼國が眞實に國家存亡の危機を體驗して、苦節能くこれを切り抜けたその偉大さは大いに學ぶべきであるが、翻つて我民族發祥の國家指導の原理が専ら君臣一體自主的の最高理想であること、對比して吾人はその指導原理の精神分野だけは日本が遙かに先輩である

ことを揚言したく、此意味に於て眠れる朝野大衆に警鐘を打たんとするものである。且又獨逸が其經濟指導原理を以て、自由尊重を揚言して居るに反し、之を倣ひ之れを諷刺する我が爲政者中強つて自由拘束、官僚獨善こそ獨逸の經濟指導原理なるが如くに解し、之を以て超非常時切掛けの唯一の手段であるように考へて居るものあるに於て、吾人は痛嘆百年の思ひを致すものである。

建國以來二千六百有二年の歴史に於て、不幸屢々君臣一體の高邁なる大理想が、國民の頭から忘却させられたのであつた。國民をして此高邁なる大理想から遠ざけしむるに至つた主因は一体何であつたか。歴史は之を明瞭に教へてゐる。

古くは大官、豪族、幕府、御用商人、近くは末期の政黨財閥等を數へることが出来る。然しながらこれ等時代、時代の指導的立場に在つた組織體も、國家の發展に貢獻した點も少くないので、その因つて起つた理由は當初に於ては何れも、合法的であり、必然的であつたのであらうが、因襲久しきに亘つて私利私慾が本位となり、公利公益が疎んぜられ、所謂全體主義が顧みられなくなつた結果、幾度か國家は危機に陥つた、その都度建國創業の大精神は地を拂ふた。

長くも大君の宸襟を煩はし奉つた事も一再ではなかつた。國民大衆は塗炭の苦境に呻吟したのであつた。然し幕末までの日本の立場は何といふても舞臺が狭かつた。曰く官軍、賊軍、曰く關ヶ原天下分け目の戦ひなどであつた。今や舞臺は百轉して日本は實に世界の日本となつた。世界列強に伍したといふ程度のもではなく、東亞新秩序編成の盟主たるのみでなく、實に世界指導國となつたのである。然るに翻つて國內官、政、財、事業各界相の現勢を觀るに果して國體の精華が發揮され居るであらうか。國家國民を愛せざれば國民亦國家を愛せずといふ言葉があるが、果して國家國民互に愛し愛せられて居るであらうか。官民共に今少し靜かに自分を省るの要なきか、吾人は須く建國創業の大精神に還り國民の總力を

もつと快く且つもつと明るくこれに協和し得るの強力なる指導力の出現をのみ切望してやまないものである。大八州を護らせ給ふ大神々莫くは吾れ等民族を今一段と試練し給はらんことを。(正月元日記)

### 聲明「喜ンデ働カウ」

福岡鑛山監督局長  
福岡地方鑛業報國聯合會長

中村幸八

世界平和建設ニ一段階ヲ劃シ帝國ノ行フ大業ト進ムベキ道ヲ明ニセル世紀ノ感激皇紀二千六百年ヲ送り茲ニ其ノ大成ト更ニ一段ノ國民的飛躍ヲ計ルベキ波瀾萬丈ノ紀元二千六百年ヲ迎フ。

此ノ年コソハ非常時中ノ非常時帝國存亡ノ岐點ニシテ國民ノ緊張ト堅忍ト奮起トヲ要請セラル、コト今日ノ如ク切ナルハナク即チ帝國未曾有ノ國難打開ノ道ハ唯一ツ國民打ツテ一丸トナリ新體制ヲ確立シ高度國防國家體制ノ完成ヲ計ルニ在リ而シテ高度國防國家建設ノ根幹ヲナスモノハ鑛業ニシテ國運ノ消長ハ一ニ鑛物増産ノ成否ニカカリ鑛業戰士ノ使命タルヤ實ニ偉大ナリ然ルニ鑛業戰士ハ寢食ヲ抛チ一路鑛物増産ノ大道ニ猛進シ居ルニモ拘ラズ「鑛物飢饉」囂然トシテ全國ヲ蔽ヒ鑛業界未曾有ノ難局ニ遭遇ス。

此ノ秋ニ當リ鑛業戰士タルモノ此ノ難局打開ニ對スル不屈不撓ノ勇氣ト堅忍不拔ノ精神ヲ一段ト振作セザルベカラズ惟フニ帝國軍人ハ一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ以テ身ヲ鴻毛ノ輕キニ比シ如何ナル困苦缺乏ニモ堪ヘ忍ビ莞爾トシテ國難ニ殉ズルヲ最高ノ名譽トナス鑛業戰士ハ此ノ超非常時ニ際シ大君ニ召サレタ覺悟ヲ以テ腕ノ續ク限り鑛物ヲ掘ツテ掘リ

ヌキ國ガ要求スル鑛物ノ増産ニ喜ンデ一身ヲ賭シ其ノ本分ヲ完シ高度國防國家建設ノ礎石トナル處ニ最高ノ名譽ト榮光ハ據トシテ輝クモノナリ。

サレバ鑛業戰士タル者益々自己ノ天職ヲ神聖視シ神秘ナ地下數千尺ノ坑底ニ於テ自然ノ寶庫ヲ打開キ非常時日本ノ國防資源ヲ自ラノ手ニ據リ採掘スル歡喜ト誇リトヲ謳歌セザルベカラズ

茲ニ於テ紀元二千六百年ノ初頭ニ當リ我々ノ此ニ製ヒカカル一切ノ陰鬱ト懷疑ヲ棄テ去リ清新明朝「喜ンデ働カウ」ノ大旗ノ下鑛業戰士ハ渾然一休鑛業報國ノ爆彈ト化シ以テ七生マデモ増産報國ニ邁進セシ事ヲ聲明ス

昭和十六年二月十四日

## 炭價問題の再検討

互助會石炭株式會社  
專務取締役

武内禮藏

本稿は去る一月十五日若松商工會議所の本社關係資材と統制打合せ席上に於て專務取締役武内禮藏氏が演説された内容が時節柄業者の最大關心事たる炭價問題から業界の見透し等に及び指導啓發する所不尠、依而乞ふて概要を摘録したものである、折角一讀齋味すべき貴重なる論旨の不徹底を缺くは偏にお詫びする次第である。(會報記者)

今更ら申す迄も無く炭礦の經營維持は決して容易の業ではなく過去苦心慘愴、幾山河の苦難を突破し來つたものである。

而してその結果酬はれたものはどうか、現在の如き經營さへ困難な悲境のどん底に置かれてある。昨年七月から業務を開始した石炭の配給統制機關たる、日本石炭株式會社の買入値段、即ち炭價の決定を見るに至つた経緯を見ると、同年四月當局から各炭礦に直接それ／＼發せられた、各坑の生産調べを矢体の基準として爲されたものである。然るに本會所屬中右各申をなした炭礦の中、報告の纏まつた百五十九坑の生産費調査と比較對照すると、決定された炭價があまりに不公平不統一を極めてゐるのに一驚せざるを得ない。これはとりも直さず商工當局者が、炭坑の實情を知悉せざる不認識の標本の片鱗でもある。而も現在の炭價はこの不認識の結果を基礎として決定せられたものである。當局に言はしむれば、業者からの生産費調査の答申に炭質を考慮し、尙買取補償金をも睨み合せて決定したと言明してゐる。然らば其内容を明示して貰ひ度いと再三追求したるも、遂に明示せず今日に至つた。而して今回日石を通じ價格決定の資料とす可く、生産費其他に關する照會が互助會を通じ發せられた。此の順序を踏んだのは前回の如き不統一と不公平の轍を踏まぬ爲めで、此點運営は軌道に乗つたものと言へる。前回の各炭坑から直接夫々徴した答申結果に依つて決められた不適正の炭價は、延ひて豫定の増産計畫に重大な結果を及ぼし、單なるデスクプランと化した。

昨年上半年期、燃料局に百五十九坑から提出した豫想生産費の答申に依るトータル、即ち昨年四月より九月までの分は坵當り生産費十八圓六十六錢五厘で、これを實績に徴すると十九圓二十五錢八厘となり、結局五十九錢三厘の生産費豫想と實績との差額、これだけ業者が不利益を蒙つた結果となつてゐる。勿論答申書を作る際、四圍の事情は考慮の中に加へられたる事とは思ふが、其の後資材、勞力の不足、不圓滑、出炭減少の爲め自然生産費の高増等々で、斯くの如き違算を生じた事と思はれる。また同年十月の一ヶ月間における實績如何を見ると、坵當り生産費二十圓七十九錢一厘と遞増を示した。これを先きの燃料局が徴した各炭坑からの豫想生産費に對比すると實に一圓五十三錢三厘の開きとなつてゐる。然も

日石の買入値は十月十日の決定である。故に今日の炭價が不合理、不適正たる事は明々白々なる事實である。適正利潤を政府は三圓と見てゐるが我々業者から言はしむれば、三圓でも四圓でも遣り切れないと信ずる。地下資源開發の不測の事故突發事業たる石炭鑛業が他産業と異なる特殊性が此所に存する。最近に至り商工省でも漸く石炭鑛業は巨額の資金を要し坵當りの投資額三十圓乃至卅五圓を要する迄は認識して來た。結局十萬坵を産出するには三百萬圓から三百五十萬圓の投資を要すると自認し乍ら適正利潤を二三圓と見てゐるのは、資金償還を永年に計算したもので、石炭鑛業の重大特殊性を忘却した餘りにも實情に疎い遣り方である。我等業者は國家が要請する高度國防國家の完遂へ一路邁進、鑛業報國の赤誠に燃えてゐる。利益追求の舊經濟理念は揚棄し公益第一主義の下、營々職域奉公の誠を效してゐる。適正利潤にしろ投資々金償却後であれば經濟の許す範圍でよいと信ずる。石油が血の一滴に價するが如く一塊の石炭は身体の内にも相當する。而も今や石炭は時局産業に、軍需工場に重大役割りを演じてゐるが、緊迫した國際新情勢の下、需要は増えるに反し一方品不足を來すが如き、思はざるも甚だしきもので我々は職域の崇高重大なるを認識し、全身全靈を打ち込んで奉公する。然し乍ら當局施策の不合理の點は飽迄鼓を鳴らしこれを是正し、もつて健全なる國家燃料の擴充に精進すべきと信ずる。石炭は各部門に於て自給自足の域に達する迄行かねばならぬ。政府に於ては宜しく自給自足が實現出來得る事に其基礎を調節して貰ひ度いと希求する。

手近に於て施策の違算は増産計畫である、即ち昨年度に於て政府は五百萬噸の増産計畫を樹てたが結果はどうであるか、恐らくデスクプランに終り十四年度實績を幾何超過するか、甚だ心細き次第ではある。日石の創立にして、我々は最初から反對し當局に向つて再三陳情を行つたが、遂に容れられず、國策として決定された。果して成立後の情態はどうか。徒らなる摩擦、混亂、矛盾、撞着を招來し不幸にして我々の豫見が的中した。此後と雖も運営には事務の澁滞、繁雜多岐に

亘る可く見られるも一旦國策として決定された以上之れに協力、鞭撻するは我々業者の責務である。事務の簡易化、運営の圓滑を期し得られるか否かは一に懸つて業者の覺悟如何にある。

上述の如く今や石炭は内地は素より自給自足の域に至らず、また滿洲に於ても同様不足を告げ、從來滿洲よりの輸入に依りてゐた朝鮮に於ては、内地及び滿洲からの移輸送不可能で、滿洲内地同様此所でも品不足に置かれてゐる。翻つて國際政局は本年に這入り傾みに緊迫の度を加へ來つた。此時艱を克服し超非常時を乗り切るの途は他なし、高度國防完遂あるのみである。悉ゆる産業の根幹たり、軍需工業の推進興隆の鍵輪たる石炭の増産こそ、先づ第一に取上げらる可き喫緊重要國策である。然るに支那事變勃發以來生産擴充が叫ばれ今日に至つてゐるも、石炭増産の如く一向に實績の見る可き無きは洵に遺憾千萬である。然りと雖も我々業者は晏如として袖手傍觀す可きでない。

扱て今回の生産費調査は十五年度下期（十月より十二月まで）の三ヶ月間の實績、十六年一、二、三月分の生産豫想と十六年度上期（四月より九月まで）の豫想を報告する事となつてゐる。（とて生産費調べに際し參考として、昨年十月の實績と日石の買上値との比較、積算出との比較を詳述したのち）想ふに現下の情勢から推して勞働力は恐らくより不足を告ぐるは必定で、資材の入手も第三國との關聯から更らに壓縮され配給も從來より一層困難を來すべく、斯かる四圍の事情の下に調製さるゝ今回の生産費調査は洵に困難であるが又慎重でなければならぬ。然して此の前古未曾有の國際變動機に際會し、われら業者は携はる石炭鑛業の使命の如何に重大なるかに想ひを致し滅私奉公、臣道を實踐し、以て國家要請の石炭増産に猛進せられむ事を切望して止まない次第である。

## 石炭増産と

### 政策の矛盾

互助會石炭株式會社

取締役 松尾三藏

近時各種工業の躍進的發展から石炭の消費量が著しく増加したので、炭礦業者も増産計畫を樹てゐるが、當局の政策不徹底からその實績が上らず空理空論に終らんとしてゐるのは國家の爲め誠に深憂に堪へない。

何故に増産計畫通りに進まず一昨年如き石炭の飢饉を見るに至つたか、これは昭和十三年九月十八日いはゆる九・一八物價統制でトン當り一圓五十錢の値下を斷行し公定價格を定めた、この時諸物價や原料資材は四、五割以上も高くなつてゐて石炭との均衡が不徹底を缺いてゐたのである、故に第七十五議會に於て石炭は國策と順應すべき性質のものである爲め、減産するが如き事ある時は國家として遺憾である、故に適正價格を改正せよと絶叫した。

これに對して政府は業者の赤字補填のため、新礦開發助成金、増産獎勵金、買取補償金等の名稱を附して國庫から若干の金を支出してはゐるが、その何れを見ても炭界今日の苦境から打開するに足るものなく、殊に新礦開發助成金の如きは資材の少なき時に新礦の開發は出來ないから、恩恵に浴する事は出來ない一種の氣休めとも見られてゐる、また買取補償金についても實際の問題と誤つた點が認められ大した期待は掛けられない。

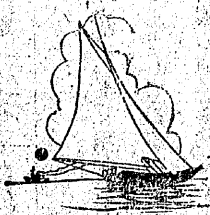
山元販賣者に對しては販賣利の益金としての口錢を認めず、従つて炭礦業者が直接各方面へ賣出す石炭には一錢の店口錢といふものを許さない事にし、地方石炭商の口錢をトン當り七十錢と決め東京、大阪、名古屋方面に於ける商人に對して

は、トン當り二圓七十錢の口銭を取る事を認めてゐる。そこで同じ石炭で炭坑直接には一錢もなく、地元で七十錢遠方には、二圓七十錢の収入とするといふ實に不合理極まる規定である。

かゝる事で如何に増産を交渉しても實際増産は困難である。今日の如く赤字の出る者に對しては、赤字の出る事を認めて置きながら原價値上げが低物價政策に反するならば、石炭販賣の利益を地元も遠方商人同様に二圓七十錢を許しその利益に依つて赤字を補填すべきである。この點は是非とも今議會で目的を貫徹したいと思つてゐる。何れにしても今日の如き赤字の出る儘にして増産命令をしたとてこれは困難である。政府は今日新しい國策を遂行するに付ては、石炭に對し黒字は出なくとも當然適正價格に引き上げ、増産問題を真剣に且つ合理的に根本から練り直し、眞の共存共榮的の石炭増産を叫ばせねば増産は期し難いのである。

## 海

### 運



#### 互助會石炭株式會社統制部調査課

### 一、汽 船

イ、遠 洋

歐洲戰亂の白熱化と共にドイツの對英逆封鎖は益々強化

され飛行機、Uボートによる商船撃沈は月平均四〇万噸に上り英政府は極力自國裝失船の發表を避けては居れど開戦以來六、七百萬噸は確實と見られて居る。現在尙千四百万

噸は保有すれど、日と共に減少の一途を辿り新造或は中古船の購入等により船腹獲得に狂奔して居る。然し現在造船能力は獨軍の爆撃を蒙り戦前の五割となり又米國の新造船三百隻建造計畫等も急場の間に合はず、此の状態の續く限り大海運國英帝國の敗色は濃厚となりつゝあり。従つて中古船價も船齡二〇年前後の大型貨物船も昨年の五〇弗より七〇弗、九〇弗と昂騰し全く天井知らずの状態である。

運賃も之を反映し、強調を示してゐる。

サイゴン — 英 本 國 (米) — 一五〇志  
 カルカッタ — 上 海 (石炭) — 四〇留比  
 ダーバン — ボルネオ (礦石) — 一五弗  
 ニューキヤッスル — 瓜 哇 (石炭) — 三五志  
 ヴイザガタム — 北米大西洋岸 (礦石) — 二〇弗

ロ、近 海

最近の船腹過剩氣味により夏場とは逆に蒐荷漁りに専念するの外なき有様である。之により重要物資の輸送難の危惧はと掃された形である。然し之も端境期の二時的現象であり夏場に向ふと共に昨年同様船腹飢饉は必至と見られ、

この際出來得れば必需物資の繰上蒐荷が望まれ極力先物出荷が慫慂されてゐる。中央統制輸送組合運賃共同計算は四月一日を期して本格的運営を開始されるが、不取敢二月一日より暫定的措置が實施されこの劃期的蒐荷と船腹の一元的集約、運賃備船料の不均衡是正が並び行はれ、夏季繁忙期の重要物資輸送の完遂が期待されてゐる。運賃は標準率により變化なく保合つてゐる。

### 二、機 帆 船

機帆船は昨年比し三百四十五隻總噸數五万二千噸の増加により、一万八千隻總噸數百十萬噸となつた。汽船と共に重要輸送機關としての使命は益々加重された。

若松港積出石炭の汽船、機帆船別割合は一ヶ年大約汽船四百万噸、機帆船八百万噸となつて居りこの中機帆船重要航路たる阪神、申國、四國の輸送割合は汽船二百二〇萬噸、機帆船七百六〇萬噸となつて居る。従つて機帆船に對しては重油、船具資材の優先配給を行ひ、極力船腹の充實を圖つて居る。



運賃は若松大阪間一、二月は四圓三〇銭、三月四圓二〇銭と協定なり、若松機帆船海運組合より熊本逓信局に申請中にて、大体認下の豫定である。今地方別に示せば次の如し。

若松港ヲ基點トスル各地行帆船積石炭運賃表

熊本逓信局認可(申請中)

仕向地	一、二月運賃	三月運賃
和歌山	五、〇五	四、九三
由良	五、三五	五、二三
大内	四、三〇	四、一〇
岸和田	四、七〇	四、六〇
佐野	四、九二	四、八二
神戶	四、三〇	四、三〇
津井	五、三五	五、三三
御影	四、四〇	四、三〇
節磨	三、九一	三、八二
片上	三、六九	三、六九
幸西	三、七〇	三、六九
岡山	四、〇二	三、九二

玉島	三、三〇	三、三〇
福山	三、三〇	三、三〇
福山	三、三〇	三、三〇
因島	三、三〇	三、三〇
竹原	三、三〇	三、三〇
廣島	三、三〇	三、三〇
海田	三、三〇	三、三〇
岩川	三、三〇	三、三〇
今津	三、三〇	三、三〇
徳山	三、三〇	三、三〇
三田	三、三〇	三、三〇
柳井	三、三〇	三、三〇
佐野(山口縣)	三、三〇	三、三〇
宇和	三、三〇	三、三〇
長濱	三、三〇	三、三〇
今治	三、三〇	三、三〇
西條	三、三〇	三、三〇
新居	三、三〇	三、三〇
丸居	三、三〇	三、三〇
坂出	三、三〇	三、三〇

林松田	三、六〇	三、六〇
小豆	四、三〇	四、三〇
小松	四、三〇	四、三〇
高松	五、二六	五、〇四
宇部	一、六二	一、六九
小野	一、五二	一、四七
下野	一、〇九	一、〇五
境來	五、七〇	五、八〇
安来	三、三三	三、三五
仙崎	三、三三	三、三五
敦賀	八、八〇	八、八〇
舞鶴	八、八〇	八、八〇

伊勢	九、二〇	九、〇〇
清水	三、三〇	三、三〇
東京	三、三〇	三、三〇
佐賀	二、六九	二、三三
高松	二、六九	二、三三
朝鮮	一、五九	一、五九
雄基	一、四九	一、四九
清津	四、七〇	四、六〇
釜山	四、七〇	四、六〇
麗水	五、五〇	五、三〇
馬山	四、九〇	四、八〇
木浦	九、六〇	九、四〇
群島	二、一五	二、一〇
仁川	一、四〇	一、三〇

時局と炭業對策

互助會石炭株式會社  
統制部調査課長 中村逸雄

新春を迎ふるに當り謹みて聖壽の萬歳を壽ぎ奉る。

肇國を回顧し新時代への定礎を作りたる我等國民に取りて意義深き紀元二千六百年を送り茲に新生の第二年を迎へたのである。

既に國內的には新體制運動への發足をなし對外的には日獨伊樞軸の強化日支條約の成立及日滿華三國締盟、並に世界に對しこの三國が宣言をしたのである。本年は東亞共榮圈及眞の世界平和を目指して政治、經濟、文化其他凡ゆる部面に向つて雄大なる決意と堅固なる覺悟を以て進まねばならぬ年である。今廣く世界の現狀を見るに、東に支那事變、西に歐洲戰爭が展開せられ、而かも兩者が相關聯して、遂に世界的大規模に進展澎湃たる時代轉換の機運は世界勢力を新舊の二分野に對立せしめ、世界大動亂への驀進となり洵に未曾有の難局、大非常時に直面して居るのである。

而して我國の北邊の情勢未だ必らずしも平穩ならず、東亞の新秩序建設の前途又幾多の峻嶮ありとは雖も、今日の我國に取っては何ものも恐るゝものなく、向ふ者は之を征し提携するものは共に平和を守るべく兩様の構へを以て八紘一宇、建國の大理想實現の爲めに時艱を克服して突進せねばならんと思ふのである。

少しく時局に付きて視るに世界注目の的となつて居るのは、獨英の戰爭であると思ふ、獨英何れが最後の勝利を制するかは視る人の立場により素より一様ではない筈である、軍事専門家の觀測にしてもまち／＼であつて容易に判斷し得ざる現狀にあるが、假に今獨乙と英國との間に媾和をさせんとするも、獨乙は今となりては有勢なる現狀を平和の基礎に置くことを主張すべく、若し英國がそれを受理したならば、自から敗北を承認せんと同様の結果となり、今後の交渉は万事英國には不利となる故、この交渉は纏り得べしとは思はれない、されば何れか疲勞困憊して倒れるか又は第三國の調停に聽従する外、動亂は終熄せざるべしと見る向きもあるが、今日の英國はナポレオン戰爭當時の氣概なく其の精神に於て既に獨乙の敵ではない、たゞ元氣付けるものは米國の援英行爲があり英國は内心ビク／＼ものだが、この米國の救助に對して

全幅の依存をなし領土を割いて骨董的驅逐艦五十隻を譲り受けるやら、尙好餌を米國に提供して其救助の求からんことを願ふて居るのである。然らば米國は何うであるかと言へば、米國は自己を過信するの餘り他國の手沙を敢てして居る様であるが、實を言へば自分自身の問題を解決すべき立場にあるのではないだらうかと思はれる、ルーズベルト大統領は先般大統領改選に當りて、米國を世界大動亂の渦中には導かないと國民に固く約し、競争の相手がよかつた爲め同國の國是とも見るべき前例を破つて大統領に三選したのであるが、大統領になると問もなく國民への約束を反古にして援英に一層力を入れ戰爭への道を今一目散に駈つておるのである、同國內の輿論は大統領の意志と著しく反對して居ることはルーズベルト三選當時の状態並に同大統領が國民への公約を見ても明かである、而し前述せる通り自己の力を過信して居るのが現代の米國であるとも言ひ得る。故にルーズベルトの政策如何によりては、今後武力參戰の實現性は薄弱であるとのみは言ひ得ないと思ふ、たゞ武力參戰に付きては其時機があると思はれる其時機と云ふのは、獨伊の力が何時迄續くか其見透しを付けた上で、武力を以て英國を援助して歐洲戰を自己に有利に導き合せて東亞を牽制して世界新秩序への轉廻を阻止せんとする意圖が多分に見へて居る。

重慶政權が我國の武力には恐れてはゐるが、我經濟力を見縊て飽く迄英米依存乃至はソ聯への關係を絶たざるは喘ぎながらも歐洲戰の成行を見守り我國の隙を窺ふて居るのであらう。又歐洲に於ける第三國の現狀を逐次に調べて見るとスイスはフランス降伏以前迄は反獨態度頗る濃厚であつたが、今日では獨伊樞軸の爲めに軍需工業の一端を擔當してゐる、又同國を通じて多量の石炭がイタリヤに輸送されてゐる様な事で兎も角表面丈は樞軸に賛成して居る。スペインは言ふ迄もなく樞軸を支持し強行なる外交政策を取つては居るが、長き内亂による疲弊は蔽ひ難く加ふるに食糧の缺乏等もあつて英米外交の付け入る餘地を十分に存してゐる。

ポルトガルは獨伊が對英攻撃と地中海作戦に於て最後の勝利を得ない限り、戦争は長引くものとなし所謂日和見の態度である。北歐のヌエーデンも亦態度判然せず一方バルガンに有りては、ギリシャ戦の如きは寧ろ一局地的のものとするべきではあるが近くに親英のトルコあり、ユーゴーの中立等もありて仲々樂觀を許さず。

今同盟樞軸は有勢にしてハンガリー、ルーマニア及スロバキヤ等相續いて参加を見たるも、世界の諸國前記の通なれば獨伊の大勢如何によりては、何時不利に反轉するやも知れざる有様にある實に油斷のならぬ情勢と云ふべきで、樞軸の作戦は一步も粗かに出來ない。

現にイタリヤはギリシャ及び北部アフリカ戦争に於て補給の困難から僅に苦戦に陥れば、イギリスはこれを機會に獨伊を離間せんと計り、自國地中海艦隊がイタリヤの爲めに思はぬ打撃を受けるのも不願して宣傳にこれ努むると言ふ有様であつて、實力よりも心持を騒がせて思想を混亂させようとするのである、されば重要な地點には交戰國外交の觸覚が相交錯し、諜報宣傳機柔等に必至となつて鎬を削つてゐるのである。

諜報宣傳の問題は我國でも日支事變以來一層矢筈敷く注意せらるゝ處であり、殊に歐洲戰亂勃發に伴ひ更に嚴しく其節より注意あり、關係官廳は申すに及ばず尋常小學の兒童さては町に遊ぶ無心の子供等につきても關心を有する時代である、然るに先年來心なき人々の不注意に防諜思想の缺陷自己の誤りたる思想故に無知の内に間者のつけ入る處となり、祖國の爲めに不利なる役目を果せしもの有つたのは遺憾である。

恐れ多くも上は 聖上 に對し奉り下忠勇なる皇軍將兵並に護國の英靈に對し、洵に申譯なき次第でありまして之れは我等國民全体の重き責任であります、間諜と雖ども教へざるものは知る由なく漏さざればこれを拾得する恐れなかるべし。

我等は光輝ある二千六百年の慶祝に當りて建國の精神を回顧し千古不磨の聖訓教育勸諭發五十年の記念すべき年に際會

せし喜びを不忘、この際一層志操を堅固にして時局と思想國防に留意して銃後の守りの鐵壁を期さねばならん。

一口に思想と言ふれ共其役目は却々大きく且つ廣いものと言はねばならぬ、宣傳謀略を以て敵國に對しその士氣を沮喪せしめ戦意を放棄させるやう心理的動搖を策するもの、判斷の誤導、用兵の錯誤、指揮の混亂、惡感情の刺戟、好感情の誘發等であり、第一次歐洲戰に當りドイツが用兵には勝つて居るに不拘、結局思想戰にて敗北したと云ふ様な事も首肯せらるゝ處である。

斯く書き貫ねて來ると誠に渾しないのであるが、我國が眞に東亞の盟主に成らねば世界に對する腕みも利かないのであらう、されば東亞共榮圈を確立することは申す迄もなく、世界新秩序の建設となるのであると思ふ。米國が自己の力を過信するのは物資に對する自然の恵みが餘りに豊富であると言ふに外ならん、之を證し詰むれば經濟力に於て我よりも遙かに優勢だと思ふが故に最後の勝利を夢見て援英に重慶誘惑に努むる一方、急遽軍擴をなすなど殊更に同盟樞軸を妨げ世界舊秩序を保たんと狂奔してゐるのである。これは勿論我強敵であつて英米聯合の形となれる今日輕視出來ざるは言ふ迄もない、而し我國の現狀を考ふるに日露戰爭乃至は滿洲事變當時と今日では、我國の世界に於ける地位と實力が格段の相違あり、全アジア並に南洋、オーストラリヤの物資を以て戦ふものと見るときは英米の物資も及ばざるべく、更に米州南北の海上通商を制するときは北米の貿易も容易にあらざるべし、從て日本の大なる決心の前には米國の示威も實力も用をなさず、我等は堅忍不拔自重して聖戰の目的に添ふ様に努力するときは、平和の來る日も決して遠からずと信ず、されば我等基礎産業に従事するものは、其使命の重大なるを思ひ今後一層奮勵して生産、配給の強度統制に應へ其運営を全からしむる様に盡さねばならんと思ふのである。

次に石炭の統制に付きて今日迄の經過と今後の進路とに付きて調べて見たいと思ふのである。

現在の石炭配給並に價格の統制は、重大なる國家産業の使命を果す爲めの一階段であつたので、今後益々強固擴大せねばならぬ制度であるが今日の處却々評判が悪い、今其の批難の聲を茲に集めて見ると

一、配給割當の不手際(適當に配給出来ないこと)

二、價格統制の不可

三、金融梗塞

四、資材及勞力の不足

五、手續きの面倒

等であつて炭礦經營の困難なること、増産の出来ないこと、優良炭種の送出不足に至る迄總て政策乃至は統制年度の運営宜敷しからざる爲めなりとして、各方面からの議論攻撃は聲を擧げると擧げざるとに不拘非常に多い様である、議論の爲めに議論する様なことなく聖戰遂行高度國防、東亞共榮圈確立等前述の如き大きな立場から、實際に則した政策を講じ統制經濟又は計畫經濟の機能を發揮させる様、政府も國民も生産者も配給者も消費者も打つて一丸となつて研究し、其機構の万全を期さねばならぬ、この意味に於て實際と理論と兩方面から研究を進め、外國の直譯的統制經濟の數を脱して、我國固有の家族制度に立ちかへり、現状に添ふた機構に改革せらるゝことが急務で有つて、又一般に希望するところと思ふのである。

今日直面して居る問題は兎に角増産せねばならぬのであつて、其の増産對策の捷徑として要望せられて居るものは炭價の値上である。炭礦の經營の實績が豫算を遙かに超過、著しく赤字を示す様では經營は續けられないのであるが、石炭の値を上げる事は政府の低物價政策に背反するものとして容れられない、即ち石炭は基礎産業であるから石炭の値段が上ること

とは、鐵鋼電力などにも影響して總ての物價を騰貴させることになると思ふので、政府は其對策として取つた方法は、石炭買取價格補償金、増産獎勵金及新坑開發助成金等であつた。而し折角の對策も實際炭價の値上りを補ふ事は困難であり又増産獎勵金並に新坑開發助成金は其性質上前以て其金を貰ふ事を得ず、一ヶ年の終りに於て手續きをして詮議の結果、漸く支拂はれるのであるから、炭坑經營上當面の役に立たざるは言ふ迄もない、況んや中小炭礦にありては急激なる經濟制度の變更に對し資金の借替等あるに於てをやである。而して資金を一般市場に求めんとせば、現下金融梗塞の影響もあり且又現下の石炭礦業の如く、儲からぬ事業には投資するものもない、されば獎勵金も助成金も望むに由なく、事業振はされば礦夫の移動も深刻となりて、遂に廢礦又は事業中止の外なきもの續出し來る情勢なれば、一時の彌縫策も間に合はず炭價の問題は再び叫ばれ、現存炭價の是正は洵に急務となつて來たのである。

さて如何にすれば適正なる炭價を定め得るかであるが、炭價を正面から上げない以上他に名案はなからう、新聞紙の報ずる政府の意圖を聞くに、生産擴充に全力を注ぐ爲めに民間の凡ゆる事業が犠牲を受けるが、しかし其のまゝでは困るから犠牲を受けつゝ、何うして品物を盛んに増加し得るかと思ふ方法を講じ、軍需に對する生産擴充の必要な線をますゝ、極めて重點主義によりてこれを決行し、其途中小民間の凡ゆる事業がやゝもすれば萎靡沈滞せんとするものをどうすれば立ち立てゝ行けるかと云ふことに付き對策を講ぜねばならぬ、即ち物價をどうするかと思ふのであつて、一口に言へば抽象的に聞え結局判然とした對策は今の處政府にも無いのではあるまいかと思はれる。

然らば一体どうすれば良きやと思ふ事になると元より大問題であり困難なことである、炭價につきでは目下日本石炭にて各炭礦の生産費を調べて居るのであるが、出來上つた上で慎重に研究して現行の買取り價格を訂正せらるゝことと思はれるが、買取價格の訂正は即ち炭價の値上げにならねばならぬと思ふ、もしこれを値上げせずして訂正に止めて製鐵用炭及

瓦斯發生爐用灰の如き上級灰は、現在の價格を引上げ下級灰は現下の價格を引き下げる様なこととなるならば炭礦經營は出來なくなり、平和産業に向けらるゝ石炭は著しく減産することになると思ふ。

其結果重工業にも影響すると思ふ、何故かと言へば平和産業と重工業との間には頗る微妙なものがあり、其の枝葉に至ると區別が出來ないだらうと思はれるからである。又金融に付きては金融業に對し政府の適切なる政策を希望し度い、石炭の配給と價格の二元的統制々度は一般經濟組織轉換の過渡期に當り、他の産業に率先して新體制の第一歩を茲に印したのであつて誠に結構な次第ではあるが、其の成立が過ぎはぎになつて居て國家至上の目的を達成すべき使命を果すためには今數段の整備を必要とするもので、現今政府でもその希望の實現に努力し準備して居る處であると思ふが、其の爲めには炭礦殊に中小炭礦を護り立てる必要ありと思ふのである。

さればこの整備の完成を急ぎ健全なる發達を遂げさす上にも金融は洵に大いなる務を果すものと言はねばならん。資材並に勞力の不足に付きて政府の對策は

- 一、増産上最少限度内の資材確保に付き特別の措置を講ずること
  - 二、資材配給は高能率炭礦増産上緊急と認むる炭礦に重點を置くこと
  - 三、増産計畫に即應し各種資材間の調和並に資材の配給量と技術者勞務者電力等供給量との均衡を保つこと
  - 四、配給統制機關の擴充並に整備入手簡易化
  - 五、勞力節約の爲めに必要な資材の供給を特に考慮する
- で等々あつて、物資不足せる時は止むを得ざることと思ふが机上の論に終らぬ様直に實行に移され度く、一方に重く一方に輕い様な重點主義であつては反て不平等となりて効果を失ふことと思ふ。勞力不足の對策としては政府は給與の考慮、

表彰、待遇の改善並に向上及勞務者確保週間運動の強大等であつて、一月より三月に至る三ヶ月を増産期間と定め、需要最季節の要求に應ぜんとして居るのであるが、右はこの期間中の施設に止めず其後も恒久的の方法が望ましい、即ち前述の待遇向上の内年金制度、保險制度上の優遇及食料、生活必需品の確保などは速かに實施願ひ度い。

これを要するに、重大時局は益々危機を孕む今日、基礎産業の新經濟組織の確立は誠に急務なれば先づ、政府の炭礦業に對する認識をこの際十分に高めて貰ひ度いと希望する次第である。特異性ある炭礦業の實際を知らずして統制も増産もない筈である、曩に日發の石炭飢饉なども石炭輸送の手落ち丈ではない、又世は石炭の飢饉を啣しながら下級炭の貯炭大量を擁し、炭礦業者の金融逼迫に拍車をかけさせたのも、實情を知らざる故に買取價格發表の時機其の當を得なかつた爲と思はれる、故に石炭礦業の大使命を達成させる爲めには各層の炭礦業を詳細に研究し、特に伸縮性ある中小炭山は其の使命に向つて發達する様に護り立て、資材の配給なども其の發達の程度並に將來性のあるものには、進んで供給すること、せざれば大成せんとする經濟の大機構も要をなさざるべし。

## ◆ 参 考

### 生産費調ニ關スル減價償却

日本石炭株式会社へ提出する炭礦の生産費調作成に當りては減價償却の基準は大蔵省主税局發表の固定資産減價償却堪久年數表に依ることになつてゐます、今同表から石炭礦業

に必要な處を抜萃して見ると左記の通りであります。

大蔵省主税局發表

固定資産減價償却堪久年數表(抜萃)

種類	船															
	鋼製内部煉瓦被覆	鋼製の内製	鐵船の内	外國航路優秀旅客船	其他	木船	小蒸汽船の内	小形發動機船	木造發動機船	艇船の内	鐵船	木船	定期乗合、タクシ	貨物	自家用	火管式ボルニシ
	鋼製内部煉瓦被覆	鋼製の内製	鐵船の内	外國航路優秀旅客船	漁業用船舶及油槽船(タンカー)には二期程の耐用を爲すことを得	木船	小蒸汽船の内	小形發動機船	木造發動機船	艇船の内	鐵船	木船	定期乗合、タクシ	貨物	自家用	陸上汽笛にして圓錐形をなし火筒の通ずべき筒が中央に一個あるも
	二五	一五		二〇	二五	一五		一五	一〇	一五		一〇	三	四	四	一五

種類	汽										
	ラシカラ	多管式	水管式	メカニカル	蒸熱装置	一フユエ	サエ	ヒーク	金庫	木製什器	自動自転車
	ラシカラ	多管式	水管式	メカニカル	蒸熱装置	一フユエ	サエ	ヒーク	金庫	木製什器	自動自転車
	一五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	三

二、固定資産減償却地久年數表  
(昭和十二年五月改正)

種類	構造	備考
煉瓦造	石造	七
(昭和十二年五月改正)		

種類	目	地久年數	備考
建物其ノ他ノ固定資産	現行ノ四分ノ三	ニ	参照

一、時局關係産業固定資産減償却地久年數表  
(但昭和十二年七月一以後ノ新設、擴張ニ係ルモノ  
(昭和十三年六月)中石炭鑛業ニ關スル分)

種類	目	地久年數	備考
汽	汽機	八年	
原動機	原動機	八年	
鑿岩機	鑿岩機	二年	
工作機械	工作機械	一五	
工匠器具類	工匠器具類	七	
鐵管類	鐵管類	七	
架空索道	架空索道	一五	
載炭機	載炭機	四	
其ノ他ノ機械器具	其ノ他ノ機械器具	七	
建物其ノ他ノ固定資産	現行ノ四分ノ三	ニ	参照

石炭瓦斯製造機械		石油鑛業用機械											
冷却装置	乾留装置	金 屬 製	其 他	装 置	石油瓦斯濃縮装置	洗滌装置	蒸溜装置	タ ン ク	日 本 式	西 洋 式	其 他	ロ ー タ リ ー 式	ホ ー リ ン グ、ミル
乾留爐の方より瓦斯を	乾留瓦斯を水中に導き「タール」を分離する装置			爐に「レトルト」を置き其の中に石炭を入れ乾溜する窯	瓦斯を以て濃縮せしめ揮發油を製造する機械							回轉式鑿井機	鑿井機
三〇	二〇	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇	五〇	五〇	一〇		一〇	

コークス製造及副産物製造装置		モンツ瓦斯發生装置		石油鑛業用機械										
タール、タンク	ベンチン分離機	スクラップパー	メ ー ン	ヒ ー ハイウ爐	ソルベト式及コック	金 屬 製	其 他	ガ ス、ホルダー	ガ ス、メーター	スクラップパー	ピ ニ ー リ	ホ キソリスター	モ ン ツ 瓦 斯 發 生 装 置	
「タール」を貯藏する槽	瓦斯に含む揮發油を比重の稍重き油に吸収せしめ之を分離する装置	「タール」を分離する装置	「タール」を除く装置	副産物を採取し得べきらざる爐	副産物を採取し得べき爐			瓦斯を貯藏する槽	瓦斯の容積を量る機械	「タール」を除く装置	精製装置	終点の「ガスホルダー」の方に送還する機械	モンツ瓦斯發生装置	
三〇	二五	二〇	二〇	一五	一五	三〇	三〇	四〇	三〇	二〇	二〇	三〇	三〇	

原動力機		石油鑛業用機械												
混 凝	木 製	金 屬 製	同 木 製	發 電 機 及 電 動 機	水 力 「タービン」	瓦 斯 汽 機	石 油 汽 機	蒸 汽 「タービン」	其 他	日 本 式	西 洋 式	其 他	ロ ー タ リ ー 式	ホ ー リ ン グ、ミル
			日本在來の水車		水力「タービン」ハ蒸氣「タービン」の如く翼を有する軸を水の衝激に依り運轉せしむるものと稱へ日本式の水車に似たるもの	前項石油に代ふるもの	石油に点火し其の爆發に依り機關を運轉せしむるもの	機械の内部に運轉軸あり之に多數の翼を設け之に對して蒸氣を吹き付け軸を廻轉せしむるもの					回轉式鑿井機	鑿井機
一五	一〇	三〇	一〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇					一〇	

土木建築用機械		鑛業用機械											
織製アレツキ	捲揚塔	抗 打 機	ミ ン ツ キ サ ー ト	陶器燒窯及磁器	セメント燒窯及煉瓦	金 屬 製	木 製	其 他	成 形 機	煉瓦原料捏和機	エツヂ、ランナー	ボ ー ル、ミル	浸出機及揮發油回收装置
									煉瓦の形狀を造る機械		礦物を粉碎するに用ふ	礦物を碎く機械にして金屬又は石の球を備ふ	揮發油にて脂肪油を浸出し其の揮發油を回收する装置
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	四〇	五〇		四〇	四〇	二〇	二〇	三〇

並造船所設備										工器具		木製				
ホイス	クレーン	運搬具	瓦斯管、水導管等	諸管	電線配電盤等	車軸類	動力傳導裝置	岸壁	場内「レール」	ガントリー、クレーン	造船台	船渠其他	木製	金製	其の他	木製
一五	二〇		一五		二〇	二〇		六〇	二〇	三〇	四〇	六〇	一〇			四〇
													圧搾空氣にて運轉せしむる機械類		三〇	

車電氣鐵道		車鐵道機關車																											
軌道	車軸(炭水車、客車共)	機關車	諸機	其他鍛冶鑄物	熔鐵爐	アセチリン瓦斯置	電爐裝置	再熱爐類	特殊裝置	作業台棚等	工場造作	架控「レール」	トロツコ	場内用機關車	軌道	車軸(炭水車、客車共)	機關車	諸機	其他鍛冶鑄物	熔鐵爐	アセチリン瓦斯置	電爐裝置	再熱爐類	特殊裝置	作業台棚等	工場造作	架控「レール」	トロツコ	場内用機關車
二〇	二五	二五	二〇	一一	一五	一二	一五	一〇		一五		二〇	二〇	一五	二〇	二〇	二五	二〇	一一	一五	一二	一五	一〇		一五		二〇	二〇	一五

金屬工機械													洗炭裝置			
螺絲製造機	切断機	パンチングマシン	刃孔機	ベンディング機	グラインダー	ギア、カッター	ミンチング、マシン	成形機	鑽孔機	レイス	金屬製	其の他	各種の蒸留器	硫安製造裝置	搗炭機	洗炭裝置
二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇		一五	二〇	二〇	二五
													ソルベー式の爐に洗ひたる炭を入れる前に搗き固むる機械		二〇	
													安母尼亞瓦斯を硫酸中に導き硫安に化せしむる裝置		二〇	
													金屬を削る機械		三〇	
													鑽を以て孔を明ける機械		三〇	
													表を削つて形を正す機械		三〇	
													磨削して成形する機械		三〇	
													齒車を切る機械		三〇	
													琢磨機械		三〇	
													鐵板を曲げる機械		三〇	
													孔を削る機械		三〇	
													孔を壓して明ける機械		三〇	
													金屬を切断する機械		三〇	

木工機械													削鋸機			
屬機械的のもの、金	其の他	磨擦機	ベンディング機	ツリリング機	平削機	ベニア、カッチング	グルーピング機及モルチング機	テノイニング機	ボアリング機	レイス	鋸機	其の他	平削機及縦削機	ドロイニングプレス	フランヂング機	リベツチング機
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二〇	三〇	二〇	二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇
													紙を作る機械		三〇	
													突縁を造る機械		三〇	
													針金を引延ばす機械		三〇	
													平面を削り又横断面を削る機械		二〇	
													軌輪と稱し木を丸く削り又は削る機械		三〇	
													孔を明ける機械		三〇	
													納を造る機械		二〇	
													溝を切り又柄を孔明けの機械		二〇	
													張木用の木材を切る機械		三〇	
													孔を明ける機械		三〇	
													木を曲げる機械		三〇	



アロイエンジン	乾風置装	ホット鉄皮	熔鐵爐	鑄鐵機	レーツル	ミキツサイ	ベセマー	電氣爐	坩堝爐	シメンスマルチン爐	裝材機	タルボニー式爐	インゴット鑄造機	鋼塊車	インゴット引拔機	インゴット	輸送装置	瓦斯發生爐
二五〇	三〇〇	四〇〇	四〇〇	二〇〇	三〇〇	一五〇	三〇〇	一五〇	一五〇	一五〇	三〇〇	一五〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇

均熱爐	鋼塊加熱爐	引出機	分塊機	ローリング、ミル	水壓機	ハンマー類	マツキタ	ホップ、マシ	製品冷却装置	キユーボラ	鑛石運搬装置	クレーン	鑛石熔爐
一〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇	二〇〇	三〇〇	三〇〇	一五〇	二〇〇	二〇〇	四〇〇

法 令

○商工省令第百一十一號

石炭配給調整規則申左ノ通改正ス

昭和十五年十二月二十七日

商工大臣 小林 一三

第七條ノ二 前條ノ規定ニ依ル指定アリタル場合ニ於テ當該指定仲買團體ハ商工大臣ノ承認ヲ受ケ他ノ指定仲買團體ノ配給計畫ヲ承繼スルコトヲ得

指定仲買團體前項ノ承認ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該配給計畫ヲ定メタル指定仲買團體ガ前條ノ規定ニ依リ商工大臣ノ承認ヲ受ケ若ハ地方長官及日本石炭株式會社ニ提出シタル配給計畫若ハ配給計畫ノ明細表又ハ其ノ團體員社員若ハ株主タル石炭ノ販賣業者ニシテ其ノ配給計畫ヲ承繼シタル指定仲買團體ノ團體員、社員若ハ株主タル石炭ノ販賣業者ニ對シ交付シタル販賣指圖書ハ之ヲ當該配

給計畫ヲ承繼シタル指定仲買團體ガ前條ノ規定ニ依リ商工大臣ノ承認ヲ受ケ若ハ地方長官及日本石炭株式會社ニ提出シタル配給計畫若ハ配給計畫ノ明細表又ハ其ノ團體員、社員若ハ株主タル石炭ノ販賣業者ニ對シ交付シタル販賣指圖書ト看做ス

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項及第二項ノ規定ハ第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ配給計畫ノ承繼ヲ爲ス指定仲買團體ニ付テハ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十五年八月一日商工省令第五十七號

石炭配給調整規則抄錄

第七條 石炭ノ販賣業者ノ團體又ハ石炭ノ販賣業者ヲ社員若ハ株主トスル會社ニシテ商工大臣ノ指定シタルモ

ノ(以下指定仲買團體ト稱ス)ハ毎年上期及下期ニ於ケル當該指定仲買團體及其ノ團體員、社員又ハ株主タル石炭ノ販賣業者ノ取扱ニ係ル石炭ノ配給計畫ヲ定メ商工大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

仲買團體前項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ上期ノ配給計畫ニ付テハ一月三十一日迄ニ、下期ノ配給計畫ニ付テハ七月三十一日迄ニ承認申請書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

配給計畫ノ承認申請書ハ日本石炭株式會社ヲ經由スベシ  
日本石炭株式會社配給計畫ノ承認申請書ヲ受理シタルトキハ之ニ關スル意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ商工大臣ニ進達スベシ

指定仲買團體第一項ノ承認ヲ受ケタルトキハ商工大臣ノ指示スル所ニ從ヒ道府縣別ニ配給計畫ノ明細表ヲ定メ之ヲ當該地方長官及日本石炭株式會社ニ提出スベシ

之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十六條第一項及第二項  
商工大臣第七條第一項ノ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ當該指定仲買團體ニ付第一回ノ配給計畫ノ始期及終期並ニ其ノ提出期限ヲ定メ之ヲ告示ス

指定仲買團體ハ第一回ノ配給計畫ニ付テハ第七條第一項及第二項ノ規定ニ拘ラス前項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ定ムル所ニ依ルベシ

◎商工省告示第五十三號  
石炭配給調整規則第七條第一項ノ規定ニ依リ會社左ノ通指定ス

昭和十六年一月二十八日  
商工大臣 小林 一三  
東京石炭統制株式會社  
橫濱石炭統制株式會社  
靜岡縣石炭統制株式會社  
中部石炭統制株式會社

京都石炭統制株式會社  
大阪石炭統制株式會社  
兵庫縣石炭統制株式會社

◎商工省告示第五十七號  
鐵屑配給統制規則第六條ノ規定ニ依リ左ノ通團體ヲ指定ス  
昭和十六年一月二十九日

日本金屬鑛業聯合會  
東京地方金屬鑛業會  
仙臺地方金屬鑛業會  
大阪地方金屬鑛業會  
福岡地方金屬鑛業會  
札幌地方金屬鑛業會

◎商工省告示第五十八號  
昭和十四年五月商工省告示第百十六號中左ノ通改正ス  
昭和十六年一月二十九日

商工大臣 小林 一三

「鑛山配給統制協議會聯合會」「東京地方鑛山配給統制協議會」「仙臺地方鑛山配給統制協議會」「大阪地方鑛山配給統制協議會」「福岡地方鑛山配給統制協議會」及「札幌地方鑛山配給統制協議會」ヲ削ル

〔參照〕  
昭和十四年五月二十日商工省告示第百十六號ハ鐵屑配給統制規則第六條ノ規定ニ依リ團體指定ノ件ナリ

◎商工省告示第五十九號  
昭和十四年九月商工省告示第百五十九號中左ノ通改正ス  
昭和十六年一月二十九日

商工大臣 小林 一三  
「鑛山配給統制協議會聯合會」ヲ「日本金屬鑛業聯合會」ニ改

〔參照〕  
昭和十年九月二十八日商工省告示第百五十九號ハ鑛鋼配給統制規則第一條ノ規定ニ依リ團體指定ノ件ナリ  
◎商工省告示第六十號

昭和十四年十二月商工省告示第三百五十七號中左ノ通改正ス

昭和十六年二月二十九日

商工大臣 小林 一三

「鐵山配給統制協議會聯合會」ヲ「日本金屬鑛業聯合會」ニ改

〔參照〕

昭和十四年十二月十八日商工省告示第三百五十七號ハ

カーバイト配給統制規則第七條ノ規定ニ依ル團體指定ノ件ナリ

○商工省告示第六十一條

鐵鋼需給統制規則第九條ノ規定ニ依リ團體左ノ通指定ス

昭和十六年一月二十九日

商工大臣 小林 一三

日本金屬鑛業聯合會

東京地方金屬鑛業會

仙臺地方金屬鑛業會

大阪地方金屬鑛業會

福岡地方金屬鑛業會

札幌地方金屬鑛業會

○商工省告示第六十二號

昭和十五年四月商工省告示第四百四十號中左ノ通改正ス

昭和十六年一月二十九日

商工大臣 小林 一三

「東京地方鐵山配給統制協議會」「仙臺地方鐵山配給統制協議會」「大阪地方鐵山配給統制協議會」「福岡地方鐵山配給統制協議會」及「札幌地方鐵山配給統制協議會」ヲ削

ル

〔參照〕

昭和十五年四月六日商工省告示第四百四十號ハ鐵鋼需給

統制規則第九條ノ規定ニ依ル團體指定ノ件ナリ

## 彙報

### 十六年度石炭關係豫算

十六年度商工豫算追加要求として日本石炭會社に對する石炭買取補償金五千萬圓を計上大藏省と折衝中であるがこれによつて石炭増産に對する十六年度の政府の交付並に出資すべき總額は實に一億六千六百廿五萬圓の巨額に達することになる

その内譯は前記の買取補償金追加五千萬圓の他に本豫算經常費に於て

- 一、石炭増産獎勵金二千四百萬圓
  - 一、石炭買取補償金五千八百萬圓
  - 一、新鐵開發助成金五百六十萬圓
  - 一、輸移入製鐵用原料炭補償金(十五年下期)九百四十萬圓
  - 一、日本石炭會社第二回拂込に伴ふ政府出資金六百二十五萬圓
- 等があり別に十六年度追加要求として更に輸移入製鐵用原料炭補償金(十六年度上期)一千三百萬圓を要求中である(九日)

### 労働手帳制

#### 單行法として議會提案

職權下における労働者の移動防止対策として厚生省ではかねて勞

働手帳制度の實施につき鋭意準備を進めてゐたが、衆議院豫算總會における出炭量低下対策に關する三善信房氏の質問に對し金光厚相はその答辯中に「單行法たる労働手帳法案を近く議會に提出する」旨を言明した、労働手帳制度については本來事務當局では單行法として提出の意向であつたが一方に總動員法の發動によるべきであるとの意向が有力となつたので、一旦労働手帳法案は一月二十二日議會提出は取止めとなつた、しかるにその後總動員法の第六條と、第二十一條について種々研究した結果、總動員法の發動によることは技術上困難なることが明瞭となつたので當初の方針に遵ひ單行法として議會に提出することに決定したものである

労働手帳は全労働者に所持させてその經歷その他を詳細に記載せしめ、労働手帳を持たぬものは雇傭主は採用出来ない仕組になつてゐる、労働者は雇入れられた際、労働手帳を雇傭主に提出し、雇傭主はこれを手許に保管して置く、万一労働者が自分勝手の理由から辭める場合には手帳は雇傭主が留置出来ることになつてゐる、現行従業者移動防止令は主として雇傭主の方の引拔防止を徹底的にやつてゐるものであるが、今度は労働手帳法によつて労働者に義務を課し完全な移動防止を行はうといふのである(大朝)

### 石炭勞務對策成る

#### 一月より三月まで増産強調期間實施

生産力擴充計畫の基礎物資たる石炭増産に就ては昨年三月八日の閣議においてこれが對策の根本方針を決定、最近においては主要

物資確保を目的とする各省次官會議の主要對策として取上げ關係官廳に命じ勞務、資材、輸送の三方面から具體的對策の研究立案中であつたが石炭對策増産對策のうち特に勞務供給關係の對策について成案を得たので舊臘首相官邸で本年掉尾の次官會議を開催各省次官(岸外工次官缺席)のほか(内閣)富田書記官長、村瀬法制局長官(企畫院)小畑次長以下關係官(商工省)椎名總務局長、東燃料局長官(情報局)伊藤總裁、久富次長ら出席、別項の如き石炭増産強調期間の實施を決定した、骨子とするところは勞務者の維持と積極的協力についての施設を主としたもので全國石炭増産強調期間の設定により厚生省で目下實施中の鑛山勞務者確保強調運動と相俟つて明春の生擴計畫中石炭増産を中心に展開せんとするもので今回發表された勞務關係のほか資材、輸送などの關係について具體的對策については關係各省で成案を得次第、次官會議に諮つて逐次實施に移す豫定である。(大朝)

### 冬季石炭増産對策要綱

石炭の増産については本年三月八日閣議において、これが對策を決定實施しつゝあるところ、冬季最需期に當り、特に勞務について左の方策を實施するものとす。

#### 第一 全國石炭増産強調期間の實施

今冬季において昭和十六年一月より三月を全國石炭増産強調期間とし、増産に關し官民の努力を傾注するものとす

#### 第二 給與上の考慮

炭鑛における勞務者の勤績の獎勵ならびに能率および稼働率向上のため、勞務者の給與につき特別の考慮を拂ふこと

#### 第三 勞務者年金保險制度上の優遇

目下準備中の勞務者年金保險制度において特に左の優遇方法を講ずること

(イ) 坑内勞務者の勤績期間につき特別優遇

(ロ) 現在までの勤績期間を期間算定に加味對酌すること

(ハ) 一鑛山への繼續勤務者に對する優遇

第四 表彰成績良好なる鑛山勞務者に對して特別なる國家的表彰を行ひ名譽を顯揚し具體的優遇の道を講ず、なほ本件は全國石炭増産強調期間に關聯し特に速かに實施に移すものとす

第五 食糧その他生活必需品の確保

食糧その他生活必需品の供給に付特にその圓滑に努力すること

第六 住宅の確保

住宅の供給につき必要なる資材、勞力の確保に努むること

第七 鑛山勞務者確保強調期間の強化擴大

目下實施中の本運動の強化擴大につき左の處置を講じ以て所要勞務者の確保を期す

(一) 運動期間の延長

昭和十六年二月までの豫定を三月までとす

(二) 原料炭および瓦斯爐用炭産出炭鑛その他優良なる炭鑛に對する勞務者の重點主義的集中、農閑勞務者、轉失業者の募集の積極的勸奨、右のため地方關係團體などに十分石炭重點主義の徹底を計るとともに關係官廳において十分これと協力するものとす

第八 外地においてもこれに準じて行ふものとす

### 全國石炭増産強調期間實施の要旨

(一) 全國石炭増産強調期間の運動は企畫院、商工省および厚生省これを共同主催す、鑛山監督局および道府縣は本運動の實施につき特に緊密なる連絡を計るものとす。本運動の實施に當りては關係各團體に協力を求めるものとす

(二) 全國石炭増産強調期間は昭和十六年一月一日より三月末日までとす

(三) 全國石炭増産強調期間において實施すべき事項左のごとし

#### 1 普及宣傳

(イ) 講演會および懇談會の開催

(ロ) ポスターの掲出およびパンフレット、ピラなどの配布

(ハ) 映畫、ラヂオ、新聞などの利用

#### 2 優良炭鑛の表彰

#### 3 優良勞務者の表彰

#### 4 炭鑛勞務者確保強調運動の強化

(四) 本運動の實施に伴ひ石炭増産のため必要なる資材および生活必需品の確保並に輸送などにつき關係各廳は極力これに協力するものとす

### 優良炭鑛表彰の要旨

(一) 表彰は原料用炭および瓦斯發生爐用炭を産出する炭鑛および生産一定額以上の炭鑛にして増産強調期間中優良なる成績を示したるものにつきこれを行ふ

(二) 表彰すべき炭鑛の数は概ね全國を通じ十とし、等級を設く

(三) 表彰は關係大臣より表彰狀を授與することによりこれを行

(四) 成績は送炭率、鑛夫稼働率、鑛夫稼働率、田炭率などより算出したる綜合的成績を参照してこれを定む、前項の送炭率の算出には炭質の良否を參酌す

### 炭鑛勞務者表彰の要旨

(一) 表彰は全國石炭増産強調期間中優秀なる成績を示したる炭鑛勞務者につき、これを行ふ

(二) 表彰は中央表彰と地方表彰との二種に分つ

(三) 中央表彰は右期間中の成績につき期間終了後これを行ふ、中央表彰において表彰すべき勞務者の数は全國を通じ十人とす、中央表彰は關係大臣より表彰狀および徽章を授與することによりこれを行ふ、中央表彰においては大日本産業報國會總裁より記念品を授與す

(四) 地方表彰はこれを二回に分ち第一回は昭和十六年一月中の成績、第二回は同年二月および三月中の成績につきこれを行ふ、地方表彰により表彰すべき勞務者の数は全國を通じ概ね在籍鑛山勞務者数の五百分の一とす、地方表彰は各鑛山監督局長及び鑛業報國聯合會長においてこれを行ひ表彰狀または記念品を授與す、地方表彰は右期間中優良なる成績を示したる炭鑛勞務者につき各炭鑛より推薦せしめてこれを決定す

(五) 中央表彰は地方表彰において二回を通じ表彰せられたるもの、中より成績特に優秀なるものを推薦せしめ、關係各省これを定む

(六) 表彰式に出席すべき勞務者については炭鑛および關係各團體

に於いて便宜を供與すべきものとす  
(附) 各炭鑛の産業報國會に對しても大日本産業報國會總裁より  
記念品を授與して表彰するものとす

### 情報局 總裁談

戦時下の物資計畫の一つとして冬季における石炭の需給について  
はすでに一般國民の消費節約を期待しつつあるが、一方その  
増産強化についても政府は先に閣議にて根本方針を協議し本日  
次官會議にて具体案を決定し新年とともにこれを實施すること  
となつた、右は生産力擴充計畫の基礎が石炭にあるにかんがみ  
かつその最需期が冬季であることを考慮して昭和十六年最初  
の生産強化重點を石炭に置くこととし、民間實務家の意見をも  
徴し研究を重ね來つたものである、これによつて全國石炭増産  
強調期間が新春を期して各地一齊に實施せられ、またこれと  
もに鑛山勞務者確保強調運動が強化擴大されることになつてゐ  
る、政府當局は炭鑛勞務者の職域率公熟誠によつて、冬季困難  
の時期に石炭の増産が強化されることを望む次第であるが、こ  
れに對し勞務者の給與、生活についても必要な措置が加へら  
れまた特に優秀なる鑛山、特に成績抜群と認められる勞務者はこの  
際國家的功勞者として、名譽ある表彰を受けるに至るであらう  
なほこれが實施はとも重要な他の産業特に金屬山などにも  
影響あるをもつてこの成績にかんがみ他の地下勞務者の如き困  
難なる、しかも重視すべきものについては、全体として優遇す  
るの途を講ずべきであると考へる

### 中小炭鑛經營に 需要家が乗出す

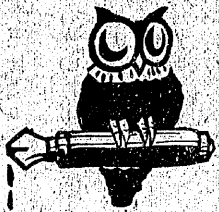
日炭融資溢滞に憚らず

石炭増産計畫の推進上中小鑛業者の金融難が大なる障礙となつてゐ  
ることは見逃し得ない現に互助會では昨年十月日炭開業と同時に  
資金六千三百万圓の借入金により設備擴張、新坑開發を行ひ年額  
三百七十万トンの増産計畫をたて、日炭よりの融資に期待をかけ  
てゐたが、日炭の貸附資金は日歩一錢九厘の高利率のため借入れ  
の見込みなく、折角の事業計畫も進捗せぬ現状にある、加ふるに  
日炭の炭代清算事務が甚だしく溢滞し一月に入つてもなほ昨年十  
月分の清算も完了せず、運轉資金にすら窮迫し、金融難は豫想以  
上の深刻ぶりである、これに對して互助會などは政府に對して早  
急に長期融資の途を開かれるやう猛運動をつづけ一方與銀より短  
期借入れを行ひ辛うじて資金を繋いでゐるが、最近炭鑛業者個々  
が各石炭需要家との間に金融の途を開きつつあることは注目され  
る、すなはち

石炭増産は本年度上期は可成りの實績をあげたが下期に入つて  
は資金、資材、勞力ともに極度に窮乏化して逆に増産鈍化の傾  
向にあり、加ふるに製鐵、電力、鐵道、船舶など緊急用途への  
石炭確保のため商工省は日炭と協力して山元に對し極力増産を  
懇請、従つて昨年末來一般産業用炭は漸次入手難に陥り購入許  
可の切符はあつても容易に入手出来ぬ状態にあるので、積極的  
に金融難の山元に對し資金融通を行ひ所要炭の確保を期せんと

しつつあり、一般産業家の炭鑛經營參加の傾向は今後いよいよ  
顯著とならんとみられる

(大毎)



## 炭界日誌

福井生

一月十六日

△若松に石炭積出促進の爲、商工省燃料局吉田事務官が着任  
した

一月十七日

△石炭増産強調期間中に於る成績優秀勞務者十名を全國よ  
り選拔し厚生大臣賞を授與することになつた

一月十八日

△若松合同石炭會社臨時株主總會に於て中平竹三郎氏が社

長に推薦された

一月十九日

△武内專務上京した

一月二十日

△三井三菱を除く大手筋炭坑方面では炭價の是正を叫んで  
上京してゐる

△日本石炭の融資進まず中小炭鑛經營に需要家の資金融通  
が効果的と見られて來た

一月二十一日

△福岡局では石炭増産防止に伴ふ災害の防止につき管内各炭礦に警告を發した

一月二十二日

△日發では用炭の割當の追加を要望するらしいが一月の危機は解消したと言はれてゐる

△石炭増産督勵班として厚生省事務官服部勞務管理調査委員が來福した

一月二十三日

△日本石炭の改組が問題となり商相の態度が注目されてゐる

一月二十四日

△門鐵管内の石炭輸送は中旬に入つて本軌道に乗つた

一月二十五日

△北九州職業紹介所では管下農村に呼びかけて石炭増産勤勞報國隊の結成準備を調べてゐる

△日本石炭では上級炭に補償金を交附せよと叫んで交渉中

である

一月二十六日

△石炭鑛業界に強力なる統制會社の設立が要望されてゐる

△筑豊炭田方面で舊正月中も無休で採炭に精進することになつた

△日發池尾總裁若松着本會並に日本石炭を訪問した

一月二十七日

△筑豊採炭組合臨時總會飯塚商工會議所に於て開催、死滅鑛區の開発等申合せた

△福岡に於て九州地方連絡協議會が開かれ、石炭山の勞力對策につき協議を遂げた

△若松石炭卸商組合は本日をして解散した

一月二十八日

△池尾日發總裁は目下の處、炭礦買収は行はずと言明した

△嘉穂鑛業花代炭坑でガス爆發し、七名の生死不明を出した

△大朝主催で、石炭増産對策懇話會が開催された

# 石炭鑛業權設定

## 福岡縣鑛山監督局

昭和十六年一月分

登録番號	鑛區所在地	面積	鑛業權者住所氏名
福岡七九〇三	福岡市、筑紫郡大野村	四三六、四〇〇坪	福岡市大名町 高須重彦 外一人
長崎四八五八	北松浦郡黒島村地先海面	九九三、〇〇〇	佐賀縣杵島郡武雄町 松永徳助 外一人
同 四八五九	東彼杵郡川棚町、彼杵村、佐賀縣藤津郡嬉野町	九三四、二〇〇	福岡市大名町一丁目 高須重彦
福岡七九〇三	遠賀郡岡垣村地先海面	七七〇、〇〇〇	宇部市上宇部 金野庄吉
同 七九〇四	糟屋郡多々良村、山田村	一二五、二〇〇	福岡縣嘉穂郡三瀬町 佐藤万太郎
同 七九〇五	同 郡志賀島村地先海面	九五四、五〇〇	門司市長谷町一丁目 片山松一
佐賀三九九一	佐賀郡四川副村地先海面、藤津郡太説山村地先海面、藤津郡七浦村地先海面、多良村地先海面	七五二、六〇〇	東京市日本橋區室町二丁目 三井鑛山株式會社
同 三九九二	三養基郡三川村	二二二、〇〇〇	同 上
同 三九九三	同 郡上峰村、三川村、神埼郡三田川村	七九、〇〇〇	同 上
熊本三、九一二	菊池郡津田村、原水村、上益城郡白水村	九九三、〇〇〇	福岡縣八女郡羽犬塚町 椿原乙藏 外一人

同 三、九一五	宇生郡網田村	四七五〇〇〇	佐賀縣西松浦郡伊萬里町	藤田與兵衛外一人
同 三、九一六	菊池郡津田村、陣内村、原水村、上益城郡白水村	九六五、二〇〇	福岡縣八女郡羽犬塚町	格原乙藏 外一人
同 三、九一七	阿蘇郡錦野村、菊池郡陣内村	一、〇〇〇、〇〇〇	上	
長崎 四、八六〇	西彼杵郡崎戸町地先海面	九八九、七〇〇	東京市麴町區丸ノ内二丁目	三菱鑛業株式會社
同 四、八六一	東彼杵郡川棚町、下波佐見上波佐見町	二九二、八〇〇	福岡市大名町二丁目	高須重彦
同 四、八六二	同郡上波佐見町	六九三、六〇〇	同 上	
同 四、八六三	同郡下波佐見村	四七五、〇〇〇	佐世保市湖見町	富田保
宮崎 三、〇七九	宮崎郡住吉村	一、〇〇〇、〇〇〇	宮崎小倉市砂津	矢野伍八 外二人
同 三、〇八〇	西諸縣郡眞幸村	九六五、〇〇〇	東京市大森區駒ヶ谷町	津谷俊光
福岡 七、九〇六	筑紫郡筑紫村、山家村、御笠村、朝倉郡夜須村	九九一、二〇〇	八幡市尾倉	芳川命照
同 七、九〇七	糟屋郡新宮村並=海面	七八七、〇〇〇	福岡縣若松市本町二丁目	合資會社山幸商店
同 七、九〇八	糸島郡雷山村、前原村、怡土村	七五五、〇〇〇	飯塚市立岩	株式會社麻生商店
同 七、九〇九	福岡市、筑紫郡那珂町	四四七、九〇〇	同 上	
山口 五、六〇八	厚狹郡生田村、王喜村並=海面	六〇三、八〇〇	宇部市小串	村田四郎 外一人
佐賀 三、九九四	小城郡多久村、西多久村	六五二、四〇〇	佐世保市島瀬町	山田源三郎

同 三、九九五	杵島郡福富村	二六一、九〇〇	宇部市中宇部	内田象二
同 三、九九六	同郡中通村	一五四、〇〇〇	下關市關後地村	海部義道
同 三、九九七	藤津郡大浦村並=海面	九九八、二〇五	佐賀縣小城郡北多久村	吉岡通隆
大分 四、一六一	大分市	九四四、〇〇〇	宇部市八王子	美澄兼藏
長崎 四、八六四	北松浦郡小佐々村	三七七、七〇〇	飯塚市立岩	株式會社麻生商店
同 四、八六五	東彼杵郡折尾瀬村	四九〇、〇〇〇	下關市關後地村	海部義道
同 四、八六六	南高來郡土黒村地先海面	四五〇、六〇〇	同 上	

### 採掘鑛區異動

(十二月中)

福岡縣鑛山監督局

採掘番號	位	置	變更ノ事由	鑛業權者
福岡 一、三六九	粕屋郡大川村多々良村仲原村	合	併	尼崎伊三郎
同 一、三七〇	鞍手郡木屋瀬町遠賀郡香月町	分	割	筑豊鑛業鐵道株式會社
同 一、三七一	嘉穂郡山田町田川郡猪位金村	合	併	三菱鑛業株式會社
同 一、三七二	厚狹郡厚南村、小野田市	增	區	日本鑛業開發株式會社

# 鑛業權者異動

福岡縣鑛山監督局

(十二月中)

採掘番號	位 置	新鑛業權者	舊鑛業權者	理 由
山口 五二八	豊浦郡豊田前	島 中 茂	内田 久外一名	譲 渡
佐賀 一一九	西松浦郡二里村	吉原梅 吉外一名	久恒鑛業株式會社	賣 買
長崎 三八六	佐世保市	寺田きよ外二名	小代新三	譲 渡
福岡 九五二	遠賀岡垣村	金野庄吉	村田四郎	同
福岡 一三七一	鞍手郡木屋瀬町	原口秀雄	筑豊鑛業鐵道株式會社	同
同 一、一六五	粕屋郡山田村	菊地庄作外一名	菊地庄作	同

## 石炭對策座談會

武内本社專務取締役も出席

高度國防國家完遂が要請せられてゐる折柄石炭問題は實にわが國經濟の鍵鑰である。消費は日に月に増大するに拘らず、

供給はどかく之れに伴はず、寧ろ石炭飢饉を現出してゐる。政府の増産施策はたゞにお題目を唱へるに過ぎず、需給調節は洵に以て覺束ない。これが原因は一体どこにあるか、生産、配給、輸送各方面における資材、努力、技術、資金などの不足、或ひは不圓滑その他炭價の不適正、統制機構の不備等々相錯し相牽制する各種の矛盾撞着不公平がそれである。これが因を究め取り除く事は刻下の急務中の急務であらねばならぬ。こゝに鑑みる所ありて、福岡日日新聞社では一月十日八幡商工會議所で縣下第一線に活躍せせらるゝ權威者、實際家を集め、石炭對策を聽く座談會を開催された。參集諸氏の忌憚なき意見は當局を示唆し、業者を啓發する所不尠なるにつき乞ふて會報に轉載し紹介する事とした。

【福日側】 本日は皆様非常に

御多忙の中を御繰合せ戴き、眞に有難う存じます。時局は益々深刻化し生産力擴充といふことが當面最大の急務となつてをります時、その基礎的なものである石炭の重要性は特に大きく我々の目の前に現はれて來てゐるのであります。それについてこの北九州の現地の方

### 出席者氏名 (イロハ順)

日本製鐵八幡製鐵所製銑部長理事	伊能泰治
日本石炭若松支店長理事	四方田 茂
互助會石炭專務取締役	武内禮藏
明治鑛業專務取締役	小西春雄
日産化學工業遠賀鑛業所副所長參事	小南不二男
福岡鑛山監督局(監理部)	下河邊 良
福岡日新新聞社	藤原八幡
松尾副總務、秋根經濟部長、藤原八幡、粕田若松	
兩支局長、伊集院、北尻兩記者等	

々各方面の本當の權威者でいらつしやる方々に、適切な御體験と御識見を思ふ存分披瀝していただき、それを紙上を通じて世間に紹介し懇へるべきものは懇へるといふことは石炭生産地であり、又大消費である北九州地方として大いに意義あることと考へます、



します。

【小西春雄氏】先だつて議會局の皆さんが見えた時に御話したんですがね、種々經濟界の全般に亘つて統制が行はれてゐるのでありますが、私の考へは戦争第一主義で行つて貰ひたいといふのが理想なのです、結局この戦争を遂行して行くに必要なことは統制もするし、種々やらねばならぬと思ひますが、中には國家としてそれは五十年百年の先を考へてやらなきゃならぬ仕事も澤山ありますが、この際は戦争第一主義の統制にして貰ひたい、後の經濟界に對する種々な施設、改革すべき事柄は出来る限り戦後の經營に委ねて貰ひたい、只今種々な基本的な改革をやることは動搖を來して、戦局切抜けの目的を達する上に混亂を來して非常な弊害を生ずると思ひます。その一例としては私共の事業の關係からいふと、あの枕木の問題です、御承知でせうが、寸口に二々刻印を押し寸法を書き、長さを書かなければ取引ができないといふのは山林政策の上からは必要かも知れませんが、それは

また別に統計を取つて報告を送るのですから、今この危急の際にやるべきことぢやないだらうと思ひます、それに類したことが種々ある氣がします、つまり改革のための改革といふやうな事柄は後に廻して、戦争遂行に必要な部分を一つしつかりやつて貰ひたい、かういふ氣がするんです。

それから、私の考へてをりますのはどうしても炭價問題に歸着して來るわけなんです、政府は……監理部長もいらつしやるのですが……補助金政策といふことに頼られる、低物價政策の建前からさういふことになつてゐるやうですが、どうも補助金といふのは議會々々毎に毎年手續を經なければ確定的のものぢやありませんし、いつ取止めになるかもわからぬ性質のものであります、事業は永久のもので先を見越しての事業なんです、採算の基礎が補助金によつていくらか補助されるのでは、今の補助金では足りない、無論赤字なんです、その根本がどうも困る、とかう思つて種々當路にも願ひしてゐる

やうなわけなんです、今朝(十九日)の新聞かに書いてられますね、茂野君と吉田君が大臣に會つて話した我々は始終あつたことをやつてゐるんです、特殊の事業に對しては、燃料が非常に生産費の大きな部分を占めてゐますが、さうでない普通の事業は極くハイセンテージが少いんですね、統計的にも二、三%と書いてありましたね、次に適正炭價論ですな、さういふことにして貰はなければ事業の根柢が動搖して、本當の事業が潰れて行けない、二期や三期は赤字でもかういふ時局の際ですから、何處も辛抱して出しますけれども、長くなつて到底採算が引合はぬといふことになれば御奉公でもなか／＼難しいことで、事實引合はないとやめるとか、採算の合ふ處だけ出すといふことが勢ひ生ぜざるを得ないと思ひます、さういふことが一番大きな問題ぢやないかと思ひます。それについてはこの筑豊の如きはコストが非常に高いのだから、安い満洲や北海道や或は北支から炭を出したらいいぢやないか、同じく投じた資本でも努力でも資材で

も、非常に効果が高くなる、九州殊に筑豊の如き老齡の處はさう高いものは出さないやうにして、枕木でもレールでも外して向ふでやつたらどうかといふ話しが時には出るんですが、これは私共からいふと機械や人を移すといふことは半年や一年でパツとやつてパツと行くものではない、減る方はビシヤツと減つても増す方はなかなか増さないといふことは明かな事實です、さうすると九州は日本全體の六〇%以上を占めてをり、筑豊だけでも四〇%の石炭供給量を占めてゐる、だからどうしても政府の石炭政策としてはこの時局下を抜切ける今年、來年、再來年といふやうな、目下の石炭對策と將來の長い石炭對策を二つ區別して考へなければいけないと思ひます、とかくそれが混同され易い氣味があるので、これは非常な過ちだと思つてゐます、時局下の今の問題をどうするか、石炭の對策、永遠の日本國家としての燃料對策といふものを區別して順序立て、やつて行くべきぢやないかと思ひます、さういふ意味から今度は二つ、筑豊の特殊

事情をよく政府にも話してみたいと思つてゐます。

【四方田茂氏】 唯今の小西さんのお話しのやうにやはり時局対策といふことが、差し當つての必要なことだらうと思ひます、殊に最近増産々々と叫ばれてをりますが、今お話になりましたやうに九州炭が全國の出炭の六割、筑豊炭が四割を占めてゐる、北海道とかその他の地方の絶対數量は少ないのです、だから九州の石炭を放つてをいて他に使はれるといふことは少し間違つてゐるのではないか、九州の石炭が一割減るといふことは向ふが三、四割減るといふことに匹敵するので、どうしても眞剣に考へていただきたい、石炭には必ず出したものを輸送する鐵道とか、船とか種々な設備が要ります、單に炭鑛の設備だけが増産に關係してゐるのではないのです。だから九州にさういふ設備があることが今後の増産には非常に役立つと思ひます、北海道で出炭が急にふえてもそれに伴ふ設備が一緒にできるかどうかといふことも考へる必要があると思ひます。

令増産対策とか方で官民共に鐘や太鼓で種々な方法が講ぜられてゐる、その結果増産は必ずできるものと考へますが、増産ができた場合に九州炭がどういふふうになるかといふ点、只今お話しのやうに九州の筑豊なんか老齡でありますから、増産といつても必ずしも優良炭だけを増産することはできない、悪い物を精選するためには種々な機械設備が要るので、現在資材不足その他の關係上増産にさういふ設備は伴はないので、今世間で要求されてゐる優良炭だけを増産するといふことができないかといふ問題で、必ず良い物も増産できるがそれに伴つて悪い物が餘計出て来る。

この悪い物は現在品位取締規則に依つて制限がありません、この悪い物は現在品位取締規則に依つて制限がありません、昨年十二月までは四千カロリーまで認められ、今年の一月から四千五百カロリーになつてをります。それも現在の需給状態から考へて政府では四千五百カロリー以下の物でも許可していただいて市場に出すことになつてゐます、今後ともさういふ悪い物が相當出ると思ひます。

【四方田氏】 さうです、さういふことも……

【小西氏】 それが非常に弊害になると思ひます、さういふ地方に非常に悪い極端な炭を送つた人があるとしますとそれが一つの動機になつて次にピシヤツと止められて後は許可しない、許可しないといふことになると或る僅かな石炭のために全體を壊すことになるから、さういふ點で餘程研究すべき問題ぢやないかと思ひますね。

【四方田氏】 撫田方面は今まで三號塊を使つてゐた、それを今度は機械製塊にして主に粉炭を使ふ、それを使へば今の機械設備が違つて来る、あゝいふものも初めは種々な問題があつたが、段々粉炭でも使へるといふことになると思ひます。

【小西氏】 今のお話しの四千五百カロリー以下の物を願ひ出て許可があれば使ふことができる、許可がなければ使ふことができないところ亦最近鹽田地方では籠の改造をやりがよつて良い炭を焚くやうな設備をやつてゐるといふ話しを洩れ聞くのですが……

山の方では現在まで塊炭を使つてゐたものが、粉炭があれば併せて貴ふことも必要だが、事業者の方では不良炭を何とか有効に地元で使つて遠方に持つて行かないやうにやつて行きたいと思ひます。

【小西氏】 許可が非常に面倒で遅れるといふ話しを聞きま

これは種々な點からいひまして、悪い物は遠方に輸送するとロスになります、種々な點で損が多いのです、ですからさういふ不良炭は地元で消費するといふことを地元工業家に眞剣に研究していただいて、地元の事業者は悪い物を焚いて間に合はせる、質で行かんで量で行くといふことを御考慮願ひたいと思ひます、今日製鐵所の伊能さんもお出でになつて、石炭の權威者でいらつしやいます、八幡のやうな工場で優良炭を必~~要~~とするコークスの材料とか、原料などは別であります、不良な物を遠方に出不さいで地元で有効に消費されて行つて、そして有効な物に變つて市場に出て行くやうなことを、眞剣に研究していただきたいと思ひます。

すが、

【四方田氏】今はさうではありません

【下河邊良氏】私の方でも今お話がありましたやうに餘り遠く運搬しないで使用方法がはつきりすれば、例へば混炭などに用ひられる心配がなければ、できるだけ許可するやうにしています、その趣旨が餘り徹底しませんために、さういふやうなことが起つた例もあるやうです。今後は若しさういふ物があれば許可するつもりであるんです。

【四方田氏】昨年度の雑炭の実績は最少認められて行くといふことになつてゐます、それから設備にのさすので、大體現在需要者と供給者が餘りかけ離れてゐるので

需要者の方ではどういふ物がどういふふうな需給状態にある、自分の方はかういふふうにやつた方がいゝと只算盤だけで計畫が行はれてゐる、も少し需要者と供給者がかういふ物が出るんだ、例へば三池炭の如きは非常に粘

るから、かういふふうにして使へばいいといふことを兩

方から研究して行けばいいのですが、さういふことを無視して片方は片方で、極端に申しますと外國の機械をそのまゝ移して、そして日本炭に合せるといふやうなことがよくあるわけです、日本の現在、筑豊なら筑豊の石炭に合せた機械を慥へるといふことが必要と思ひます。

【下河邊氏】それは必要ですね

【福日側】今の戦争當面の必要と恒久的な對策と或る程度區別して、そして戦争第一主義でやれといふことは、これは經濟統制の全部に當てはまるといふふうなものがあ

るやうですな

【小西氏】その實例は、昨年十一月企畫院に杭木問題で行きましたかね、山林政策としてはさういふことは必要かも知れませんが、我々としては大變な手數です

【下河邊氏】應急と恒久との區別をどこではつきりするんですか、そこに問題があると思ひます、炭礦開發をする場合でも、その點に各々意見が違つてゐると思ひます

杭木を出すにしても、三年間に兎に角グツと出すか、

それとも本當に十五年とか二十年後を考へて、計畫すべきなといふところに意見の相違があるのぢやないのですか、さういふお話しぢやないですか。

【小西氏】それもあるし……

【武内禮藏氏】皆さんからお話があつたやうに統制といふことについては餘り複雑過ぎた統制を敢て入り、細に入り、見透しのないのにおやりにならぬといふことが、混亂する原因のやうに思ひます。

嘗て體驗のないことを、机上でお決めになつて、これでは私に常にも申しますが、やはり鑛山に關することは鑛山監督局の實地に對する總ての見透しなり見極めのあることを基礎にして、政府で御研究になれば餘り摩擦はないと思ひます、處が監督局は單に鑛業權の擁護保安上の監督、その他技術上の管理をするにすぎず、機構が企畫院で決められ、或は本省の事務官に依つて決め

られますのが現状で、私共としては痛切に石炭に關することは監督局が中央に申達なさつて、適當な處置對策をなされる方が、これまでの摩擦混亂をいくらか緩和するのぢやないかと思ひます、これは要するに統制に體驗のない方が、机上で立案されるために増産出来るものが出來ない結果となる、これが我國の統制の缺陷だと思はれます。

よく「官民一體」であると云つてをられるが、却々民間業者のいふことは聞かれませんが、種々陳情をし書類も出し統計も示しますが總てそれを織込んで立案なされてこそ始めて適切なる統制にしても、増産對策にしても、講ぜられると思ひます、昨年來種々な専門委員とか私共が審議委員に任命されました、中央で會議する場合に既に原案が出来てしまつてをって、唯云つて聞かせるといふくらゐで、議論の餘地はないのです、然るに最近になつて今日の新聞の報道の如く、商工大臣が出炭對策について古田、茂野氏に聴くとは何たるぞだと思ひますね、今頃

石炭対策について訊くといふことは事變がもう四ヶ年も  
續いた今日、餘りに私共からはせればまともに見えて  
られないくらいに遺憾な點が多いのです。

我國のこゝ六、七年間の石炭の見透しには絶対自給自足  
を國內でやらねばならぬと信じます、さうしますれば今  
でも御承知のやうに日滿支聯合の石炭対策をとつてをり  
ますが、實情をみても、この日滿支は何處までも石炭の  
対策については、共通性を持ちまた持たせて行かなけれ  
ばなりません、何れにしろこゝ暫くは内地はどうして  
も自給自足をしなければならぬ、そこを以て良炭を焚くと  
か焚かないとかいふやうな問題が生じて見解の相違  
があると思ひます、例へば優良炭を焚いた方が經濟的で  
あり能率上いゝと申しましても、それに要するだけの國  
内の供給がないとすれば、麥飯も食はなければならぬ、  
外米も混ぜなければならぬ、それが時局下の國情と思  
ひます、それが重點主義で六千カロリーとか、どうする  
とかかうするとかいふにはまだ距離があると思ひます、

る程度以上ないといふことになれば、やはり廻つて鐵を  
少く使つて石炭を出してゐた時代を連想してある物によ  
つてはこの時局を克服するだけの工夫技術を凝らさなく  
ちやならぬと考へます。

今そこに四五項目掲げましたが大手筋の方には金融とい  
ふ問題は比較的少いことゝ存じますが、日本石炭の創立  
に依つて中小炭鑛は需要家からの金融を得たれてしまつ  
てをります、従來製鋼會社とか或はセメント會社等は自  
分の石炭を確保するためには必ず或る程度の金融を炭鑛  
にして、そして石炭を確保してをつたものです、それが  
政府の方で配給購買券を發行されるやうになり、需要家  
から見ればそれからは政府が配給してくれるから結構な  
ものだといふことで石炭対策に設けられた切符配給に甘  
んじてをられた點があらうと思ひますが、其結果は政府  
が規正を加へて配給券を與へただけの配給が結果におい  
てできぬことになつてをる、需要家に於いても石炭が寄  
らぬためにこれは炭鑛から手を引かなければいけない

そこまで行くには先づ先づ當面の聖戰の遂行を第一主義  
とする同時に國內産業を何處までも廢頓さしてはならぬ  
といふ意味に於いて、先づ我國は内地は内地の石炭供給  
でやらねばならぬ、それに對しては相當の粗悪炭も混ぜ  
て少々の不便や不經濟はこれは已むを得ないといふ指導  
が政府としては必要ではないかと思ひます。

又現在の石炭増産対策の問題については、先づ金融問題  
を一に掲ぐべきものぢやないかと思ひます、それについ  
ては炭價の適正化即ち適正炭價を決め、それに續くもの  
が勞力の問題と資材問題である、この資材といふものは  
これは國家として聖戰遂行上産業に渡すべき鐵がない、  
或は材料がないといふことになれば、與へられた物によ  
つて種々な工夫技術を凝らして炭を出さうといふ信念な  
り覺悟を私共はもつてをります、必ずしも與へられた範  
圍の材料では仕事はできぬといふ者はをらぬ筈です、施  
設の點については、嘗て監督局でもお話し本省にもお話  
しましたが、いよいよ如何に鐵材がいるといつても、或

といふ氣持になりつゝあります、さういふ建前から金融  
がすつかり切れまして、日本石炭が今日のところは金  
融するといふことになつただけで切れました、第一條件  
であるが金が何れからも出ない、借れば金融業者銀行、  
興銀から借りねばならぬことになりましたが、今のやう  
な炭價の制定で補助金その他現在のやうな状態では、經  
營のバランスがとれないため何處に行つても金の貸手が  
ないといふのです、これが非常な増産に對する矛盾した  
結果を來してゐる。

【福日側】 四方田さん日炭からの融資の實情はどうですか  
【四方田氏】 融資することになつてをります、只融資とい  
ひましても、端的に申しますと救済といふ意味の融資と  
事業に對する見透しを付けて行くといふ意味の二つがあ  
ります、私のところでは今のところ救済といふ意味は加  
味してをらぬのです、現在生れて僅かしか經たぬもので  
すから、救済といふ意味であればこれはもう少し早くど  
うかなると思ひますが、機關が揃はぬといひますか、看

板を上げではをりますが、その邊まで進んでゐないので

【武内氏】結局、ないので、十三日私の方で役員會を開きました。日本石炭を相手にしてをれば間に合はないといふのです、命が切れる時にお医者さんがゐないのぢやないかと思ひます（笑聲）看板を上げてをつても上げただけでお医者さんがゐない。

【福日側】病院が出来ただけでお医者さんが居らんのではどうも……

【武内氏】年内に百廿萬圓を興銀から増資、奨励金の前借をしました。これは日炭に話するよりも興銀の方がいゝといふので、東京の興銀で總裁に會ひ福岡の方に逆に話して貰つて漸く福岡の方も誠意を以てやつてくれました。百廿萬圓の金融が暮の卅日と卅一日に出来ました。要するに機構なり機關なりは結構ですが、その運営が現在適切でない、看板だけは出したが、何時貸出すかわからな

いので非常に困つてをります。

【福日側】日炭の立場としますと四方田さんのお話しも御

尤もだと思ひますが、としますと武内さんもおつしやい、ました適正炭價問題に歸着しますが、その點についても少し、

【武内氏】炭價は現在低過ぎるから、炭礦經營に赤字が出ない範圍にやることは何者も反対はないだらうと思ひます、ところが内々わかつてをりながら直さない、かういふ實情ですね。

【福日側】一般にどうせう。

【小西氏】やはり赤字です（笑聲）十三年の九月に釘付けされて以來、實は昨年十月の日本石炭の創立に依つて買上値段が相當適正利潤を見て云々と政府は宣傳したのでみんな辛抱して來ましたが、蓋を明けて見るとコストが先走つて上つてをる、どうにもいけないのですね。

【小南不二男氏】私は大體技術屋の経歴を持つてをります。統制といふことについては素人なんです、今の戦争第一主義でやるといふお話し是非共さうしなければならぬ

と思ひます、それについてはどれ位の年数の見透しを樹てるかといふことは相當難かしい問題だと思ひます、とにかく年数の如何に拘らず、戦争第一主義でやらねばならぬと思ひます、その次には私共が一つの炭礦を計畫する場合に一番大事なことは總ての設備を簡易化する、出来るだけ坑道の數を減らす、切羽を集中する、かういふやうにして、できるかぎり簡易化する。最も優秀な技術者であるといふ確信を持つてをります。

さういふ意味から申しますと、統制も統制そのものはぜひ時局下に徹底的にやらねばならぬ、併し統制の方法技術においてもできるだけ簡易化して、大綱をはつきり示すと同時に適確なる方法を樹て、やつて貰ひたい、とかういふことを考へてをります。それから融資問題が出来ましたが丁度死んでから醫者が來るやうなお話しがありました、實に名言だと思ひますが、今の小炭礦が最も資金的に困つてゐるだらうといふことは想像できませんが、今の炭價で行きますと、大炭礦もその轍を必ず踏んで來る

と僕は思ふ、損をしても事業をやれといふことはなんぼいつてもできることではないので、國家としてはその點は時期を失しないやうに一步進んで考へる必要がある、僕はもつと前に炭價を是正すべきで、今では時期が遅いと思ひます、儂等の炭礦でもこの炭價が抑へられていますから生産費は非常に騰つて過去一年間は特に騰つてをります、賃金統制令なんかもあります、賃金も相當騰つてをります。

一例を挙げますと杭木なんかでも去年の四月頃に比して約三、四割騰つてをる、杭木なんかは山によつて違ひますが生産費の大部分を占めるものが騰つてをります、賃金でも殆ど五〇%乃至六〇%を占めてをりますが、それが騰つてをります、さうすると生産費が騰らざるを得ない、生産費が騰ると益々事業が消極的になつて來て、増産どころぢやない、減産になる、かういふ點についてはできるだけ早く手落ちしないやうにやつて行きたい、戦争が済んでしまつてからでは間にあはなくなるだらうと

思ひます。

【福日側】 下河邊さん今小南さんがいはれたやうに増産どころか減産の傾向にあると我々も思ひますがいかゞですか

【下河邊氏】 その點將來のことは後ほど申し上げたいと思ひますが、見透しに一寸觸れてみたいと思ふのですが、先づ申上げたいのは増産対策、増産対策といはれてをりますが、石炭生産は福岡の管内ですと大體九六〇位までは計畫通りにいつてをるわけですね、ですから相當好成績です、これは餘りいふと叱られるかも知れませんが、實際どの産業でも計畫に對する九六、七〇といふやうな成績を挙げましたならこれは甲ノ上だらうと思ふのです、ところがですね、それだけ出して増産々々といはれてゐるのはなぜか石炭といふものは一寸切れても社會に大問題を起すほど重要な物資だと思ふのです大體に相當の成績を皆擧げてゐて下さる、赤字で困つてをるところもありませんし、勞務者も相當疲れてゐるにも拘らずやつて

ぜかと申しますと、つと前の不況の昭和四、五年頃第一次の歐洲戦争がすんでから、それから段々下り坂になつたのですが、愈よいかなくなつて表面に現はれて來ます時分は遅いので、炭礦は一遍事業を止めたらその復舊は容易でない。

これは三年五年では間に合はない、自分が經營者としての立場から考へても自分のやつてゐる炭礦はどんなことがあつてもこいつを切抜けようといふ考へがありません、それから石炭を出さなければならぬ考へがあります、そのも炭礦が潰れた、これも縮小したとかいふやうな問題が目につくやうになつたら取返へしがつかないので、今の生産數量が比較的順調なことは確かに考へられますから今の炭礦は一面からいへば苦しまぎれのことをやつてゐる状態と思ひます。

【武内氏】 今監理部長から話がありましたが、この數字は私共それを是認することができません併し、これは石炭の

もらつてをる現在なんですから、炭鐵關係のこの努力だけはとにかく國民全體が感謝の心を以て見ていただかなければならぬと我々は考へてをりますところが國民全體がさういふ氣持になつてゐるかどうか、私はなつてゐないと思ひます、そこにやつぱり石炭が心配される原因があるのぢやないかと思ひます。國民全體がさういふことを深刻に認識しなへすればもつと対策が早く樹つてそしてこんな心配が起らぬ中に順調に進んで行くのぢやないかといふ氣がします。

【福日側】 米の有難さは國民は昨年來わかつたが、石炭の有難さはまだくたといふ意味なんです、生産者も消費者も社會の人が……

【下河邊氏】 勞務の問題でも生活必需品の問題でもさうだと思ひますね。

【小南氏】 他の礦業と違つて炭礦は特殊性を持つてをります、今河邊さんも話されたが、相當増産してをりますが、是れを以て樂觀すべき問題ではないと私は思ひます、な

需要は逐年殆んど五百萬噸に近い消費量が増して行つてをります、昨年実績に近いものが出たからといつても國家産業には非常に停滯したと見做していい、出るのば出て居りますが……

全國出炭率のうち福岡礦山監督局管内の九州が六七％に宇部の七％を加へたならば、七三％といふものは福岡監督局の實力といふことになつて來ます、偉大なものと思ひます、その歩き方はどうかと見ますに九月は九州は十年の実績に較べて三三％の減です、四月から九月の半期をひつくるめて見れば相當の増産になつて居りますが九月だけを見ればこの通りです、いかに北海道が増産といつても九州の半期出炭と較べると一千萬噸少い。何といつても大きな現有勢力を持つてゐる福岡監督局管内が減産を示して居るのは事實です、政府が六百萬噸増産といつたものが半期だけで見れば殆んどその目標に近いところまで行つてをりますが、役所方面では二三％、三四％といふ四月、五月の増産率の高いところを見て非常に

樂觀してをりました。

こゝで、私共が現在増産に缺陷を來たしたと思ふのは四月五月の實績が非常に高率を見たために労働力の充足に對しまして非常に樂觀された形跡があることです、これは管理募集して居られますがつまり軍需工業等の地上労働と地下労働の賃金の開きが大きいのです、大手筋も私共小さいところも一ヶ月六十圓から八十圓が炭鑛稼働者の収入となつてをります、稼働日数が最も多いところでも二十日、平均すれば十七日か十八日しか働いてゐない、こゝにをきまして稼働實収入は地上労働は大變な違ひがある、従つて移動が激しい、

昨年監督局管内でも二萬に近い半島人が入つて來てをるがさういふ人達がどうなつたか政府の方のいはれるやうに、炭鑛稼働者は炭坑内を廻つてをるのだと解釋してしてゐられるが、これは机上論で間違つてをります、これらの半島人には募集に便乗して來た者もあらうし各方面に……阪神方面の工業労働に轉換もしませう

状態が許さないから引續いて寄越してくれといふので、大勢行つてゐる、さういふ情勢ですから、私は労働力は相當或る程度まで入つて來るのではないかと思ひます、今まで労働力が足らぬ足らぬといつて困つてをりました、が、或る程度は補充されるんじゃないか、もしそれができないうらならば、職業紹介所を通じて我々が自家募集をやつたことを差止めたことは相濟まん次郎と思ひます

【武内氏】 あなたの御意見は紳士的である(笑聲) 勿論職業紹介所が送つて來た驗しは手廻もない、總て手形は空手形ばかりで送つて來た者は一人もない、私は實績によつてしか信頼しません、ところが今日のやうになつたことについては大手のあなたがたにも責任があると思ひます。

昨年の議會來反對運動を起して石炭の炭價を五圓上げるといふので東京で大會を開いたが、それに對して黙して一緒にやめてくれない、半面から考へれば非常に忠實だ

一面には備けさせるだけの材料が炭鑛に與へられてゐない、又石炭の炭價が釘付けされてをります、こゝにも炭鑛稼働者といふ最も石炭を出すのに貴重なる増産對策の第一に擧げていゝやうな労働者が炭鑛にをらない原因があると思ふ、炭鑛の坑内に入つてあの危険を冒して、地上労働の七〇%か八十%の賃金しか貰へないといふやうなかういふことも、石炭増産上見逃せないことだと思ひます。

【福日側】 小西さんどうせう

【小西氏】 さうですね、石炭山金屬山を通じて六萬人の内地人を供給するといふことに今なつてをります、全國の職業紹介所を總動員し、各縣知事や監督局は勿論、皆さん方も各地に出張される、そして大いに鞭撻して農村、労働者を連れて來て、この増産遂行に協力してやらうといふことになつてをります。

一面には半島人も朝鮮總督府は二月以降の募集は内地送りには困るといふことになつてをりますが、それでは内地の

つたと思ひますが、實際現はれた結果から見れば今日この減産になつたについては大手筋にも責任がある、今あなたがたの赤字がでるのは何にもいへないのぢやないかと思ひます(笑聲)

【福日側】 肥料なんか石炭と同じやうに補助金政策によつて價格を抑へてをりますね。

【武内氏】 補助金政策はさつきお話しがありました、炭鑛事業は五年、十年で多額の投資が要るものは償却も見透しをつけなければならぬので、議會を通過すれば補助金が出るといふやうな彌縫策では炭鑛事業には手が付けられない、これは根本から止めて貰はねばならない、これは岸前次官と突詰めた意見交換をしましたが、昨年はおまかしの補助制度をやつたが、これはいかんといふことを本人も言はれました、鐵と石炭は上げなければいけない、但し石炭を消費して作つた製品に對しては上げさせてはならぬ、これは石炭を主として使つた商品が一般的商品といふことになれば二%か三%にしか該當

しませんから廣い範圍からいつたならば餘り無理が來んのぢやないか、この補助金を出すと云ふごまかした政策ではしけなう。

【福田側】補助金政策について政私共根本的に非常な疑問を持つてをりますが……

【武内氏】今日買つて今日賣るものであればいいのです。我々の事業はさうではない。

【福田側】物價政策と關聯してゐますが、錢について商工省は値上げするものだと思つてゐましたが、これも押へて補助金政策で行つたですね、かういふことは全般的に價格政策、大局的な立場からいつてどういふふうにお考へになりませう。

【小西氏】低物價政策の鐵則を樹てゐるせいか、物價局では炭價引上げを通さうとしない、岸前次官にも私共補助金政策ではいかんといふことを言つた、昨年三月議會中だつたが、來年度は適正炭價に置換へなければならぬ、諸君の話はよく判ると非公式の場所ではあつた

【福田側】四方田さん、價格政策全般について、あなたのお仕事の上からみられて……

【四方田氏】最前からお話のやうに今後のことを考へると差當つての問題は必要な物を必要な時期に供給してやることが減産を喰止める方法になりませうが、炭礦の永久經營といふことになりませうと、矢張炭礦は炭價といふことが根本的問題です、長い經營は……

例へば現在興銀なんか金融の商賣人……、どうも見透しがつかなければ、いつ……金融はしましませう、長い將來のことを考へますと、炭價そのものを上げねばいかんと思ひますね。

【小南氏】一度入れました資本といふものは、補助金がなくなつた時分になつてやめるといふわけには行かんですからね。

【四方田氏】政府はさういふ突ツかい棒を黙つて外すといふやうなことはしないといつてをりますが……

【福田側】伊能さん、いかいでせう

が言明したのです、だからわかるどころにはわかつてると思ふのです、そいつが仲々低物價政策を破るには困難があるらしい。

【福田側】どうも今の物價政策は行詰まつてをるやうです

【小西氏】今武内君から御叱りを受けたんだが……

【武内氏】あなたが黙して顔まへを作つてをられる中に國家産業は減退する。

【小西氏】それは黙してをるのではなくして運動の方法が違つた席旗を押立て、云々といふふうに行くかどう行くか運動の方法と手段が違つてゐる、それと先刻申上げた十月の日本石炭の創立に對し相當大きな希望を持つてゐた。

【武内氏】それが間違ひだ、やつぱりお互業者は業者として眞剣に一致して政府に進言して誤りない意見を樹てさせることが必要と思ひますね、今度は意見が一致したから今度は一緒に……(笑聲)

【伊能泰治氏】値段の點については我々は……値段

は適正であるといつてゐる人もあるし、さうかと思ふと物價指數の方から考へると今の値段ではどうかといふやうな風には思はれる點が多々あるのです、然し日炭の買入炭價といふものは全然發表してゐないから知りませんが日炭の買入値段が事實安いものだと思はれば、少し長い目で見て勞力不足とか赤字續きで損があれば炭礦は手を出すことはできないから、是正しなければならぬ問題だらうと思ひます、が今の値段をどうしても是正しなければならぬと思ふことは優良炭の價格……品質を改善するといふ點について少しも刺戟ならんやうに思ふ。

値段の決め方が山から……坑内から出たものを水洗してそこに相當の洗ひ減りができる、動力費もかゝる、色々の生産費がかゝる、さういふものを見込みますと、恐らく品位一%を上げるのに對して二%乃至三、五%の生産費の差がなければならぬと思ふのですが、今の値段ではさういふやうな點を考慮して決められてはゐないのぢや



ないかと思はれる、値段が直線的になつてゐて、一%よ  
くすれば一%値段を上げるといふやうなことにしてあれ  
ば、生産者の方では一%よくするために二%乃至三、五  
%方生産費が上るのを忍んでもよくするはずはないわけ  
です。だから一般的には生産費が正しく盛られてあつて  
も、優良炭については今少しくその増産を刺戟するだけ  
の炭價がきめられなければならないと考へます。

【小南氏】 品位を上げるとそのためにそれより大きな問題  
がありますからね、そこに製鉄業者からいへば犠牲を拂  
はねばならぬことになりますね

【四方田氏】 買入炭價はさういふ點が多分、今おつし  
やるやうに多分に色々の政策が加味されてゐるやうです  
伊能さん達が作つた原案はさうではなかつた、優良炭は  
製鐵事業とか何とかさういふ重要産業に振り向ける……  
いふやうな點が加味されて現在迄來てゐる、併し今後は  
原料炭、ガス發生用炭とかコークス用炭、煉鐵炭とかは  
別に考へなければならぬ。

これらはどうしても滿洲或ひは北支の方から持つて來な  
ければならないといふことになりませんが、大體原則とし  
てはまづ現地で供給できるものといふのが一番理想的な  
わけです。

それから色々炭質の問題がりましたが、この炭質はどう  
しても今まで需要が旺盛になつて來ると炭質はどん／＼  
下つて來るといふのが……この前の世に戦の時もさう  
だつたし、今度もさういふふうな経過を辿つてゐるやう  
に思はれますが、使ふところでは大體何處の原料を取つ  
て使ふ、何處の原料はどの位のものかといふことを見込  
みを立て、案なりポイラーなり種々さういふ装置を造  
るわけですから、それが非常に變つて來るといふと量だ  
け澤山あつても間に合はないといふことになる。

たとへば千種の石炭が或る品質のもてあつたのが、三  
割品質が劣つたといふことになると、三割の生産減では  
濟まないやうになる、それからガスを造る發生爐の場合  
に矢張り品質が三割落ちるとガスの成分が劣つて來ます

【福目側】 さういふことになれば最初おつしやつたやうに  
品位の低いものではできるだけ輸送せずに精選について具  
體的施設を餘程考へて行かなければならないと思ひます  
が……

【伊能氏】 これは使用する方からの考へですが、北九州に  
工場を建てれば大體九州炭を使はう、東京邊に建てれば  
常磐炭あたりを使はうといふやうな建前がある、初めか  
ら原料炭を考へずに工場を建てたのでは、根本計畫が間  
違つてゐるので、現地の自給自足が一番理想的なわけ  
です。

ただ特殊の石炭、例へば製鐵所に使ふコークス用とかそ  
の他化學工業用の原料炭は日本ではどうしても産出しな  
いものがある強粘結成炭といふものは、日本でも極  
く一小部分で而もその量も到底需要を賄ふことはできな  
い、かういふ輸入される重工業用、化學工業用の特殊炭  
は恐らく今の需要の四、五〇%近いものはあるだらうと  
思ひますが、それはこの近年急激に需要増加しました、

又ガスの生産量が違つて來る、さういふものを掛け合は  
せると、先づ數字に當つてゐませんけれどもガスの噴出  
量といふものが半分になると發生爐の數は倍なければな  
らないといふことになる、それからポイラーに焚く場合  
でも恐らくどんな石炭でも焚けるといふやうな萬能ポイ  
ラーといふものは、始めから非常に能率のひくいものを  
造つておかなければならないといふことになります。

そこで私の考へてゐるところでは、今は資材も不足です  
し勞力も不足だといふ時代ですから、隣接する中小炭礦  
を今少し統合してやる、といふ方法等も多少増産の一方  
ではないかと考へます、それは極端な例を申し上げますと、  
北松浦郡邊りでは一つの坑口から違ふ生産者が引出して  
ゐる、つまり坑口だけが共通して中は上と下の層を掘つ  
てゐる。引出して道一つ隔つたところでお互に小さい水  
洗機を以て水洗してゐるといふ風な例もあるのです、そ  
れはどうして一緒になれないかといふ氣持が我々にはあ  
りますが、さういふ例からみても少し何か生産の上

おいて統合できたならば、設備の補強、強化といふこともできませうし、又多少資金の融通性を増すといふことも考へられるのです。

【福日側】 只今伊能さんのお話しでは今の炭礦の採算難を緩和するために、炭價を引上げなければならず、そのためには買取價格だけでなく、販賣價格も引上げなければならぬといふやうな御意見だつたやうに思ひますが、下河邊部さん、いかゞでせう。

【伊能氏】 今引上げるとか引下げるとかいふ問題は、生産者が赤字だからでせう、引下げるなり適量なりの私の主眼とするのはいいものが出たら、それよくしなければならぬ、悪いものはそれだけ悪くしなければならぬ、ところが今の値段の盛方といふものは、その差が餘りない、ないからよくしたつてつまらぬ、よくしたらますます損であるといふことになると、質はよくなるんぢやないでせうか、基本炭價についてはどうも判りませんが、よくなつたものについてはもつと高くしなければ

ならないし、悪くなつたものは安くしなければならぬ。その値段の盛方は實際の精選の費用といふものを十分償ふやうにしてやらんと、よくはならないで悪くなるばかりではないかといふ意味です。

【小南氏】 炭價の問題については僕は今他の物價は一定してゐるとしての假定の下ですが、もし低物價政策をも一歩進めて枕木なり勞銀なりが安くなるやうに他の物價を調節して引下げること必要です、要するに釣合ひがとれないといふ状態にあると思ひます、例へば枕木でも値段を引下げたために枕木が手に入らない、勞銀でも引下げたために炭坑に勞務者が足らないといふ相對的問題ですから、片一方を引上げて片一方を引下げたのではないと思ひますがどうですか。

【福日側】 全くさうですね。

【小西氏】 三井、三菱、日炭などでもさうですが、私のところだけの物價指數を拵へて居りますが、それと比較すると炭坑で使ふ枕木とか火藥とか鐵材、レールとかいふ

ものばかりで五六年とつてをりますが、それによると非常に無理があると思ひます。

【小南氏】 その釣合ひがとれんから困る。

【小西氏】 それとも一つは會社經理統制令が煩瑣に過ぎるですね、電話の交換手やらタイピストやらの昇給から給料まで、何十錢からある、どうしてあつたことをやらなければならぬのかと思ひますね。



— 役締取務專内武の語 —

【福日側】 煩瑣といひますと日炭における買上割戻しの手續ですがどうも外部から考へると大變手数を要すると思

ひますが、これはこゝも無難にすらく行つてゐますか。

【四方田氏】 すらく行つてはゐませんがね(笑聲)行つてゐませんが、併し今の日炭の買上げ買戻しの差金

の清算、さういふものを私共物を握らないで數字で以て正確に整理するにはどうしてもあつたのです。(續く)

# 本會記事



## △重役會理事會

昭和十六年二月三日みどりやに於て重役理事會を開いた、出席重役は、

野上名譽會長、武内事務、末吉、北代、金丸、橋上(代)、木會、田籠、和才、美山、高島(代)各取締役、西本、西田(代)加茂、山下

各理事で中島相談役の代理として山形信雄が出席した。

### 議 題

- 一、生産費調提出ニ關スル件
- 一、炭界情勢報告ト今後ノ對策

## △出張所新設

本會では日炭の業務開始に伴ひ繁忙を加えた、事務の連絡進捗を圖り、附近炭坑の利便の爲め、從來の東京出張所並に肥前支部の外、新に左記六ヶ所に出張所を設け、三月一日より愈々事務を開始した。

出張所名	位 置	電 話	主任者氏名
福岡出張所	福岡市大名町監督局前	三、一一一	諸岡忠雄
嘉穂出張所	飯塚市大町東寶前	一、七〇	佐野健吾
田川出張所	後藤寺町短子通り	四、五	石井逸雄
直方出張所	直方市丸ノ内信用組合内	直方 三七五	木原茂夫
折尾出張所	選定中 當分互助會内ニ置	若松 三六一	松尾半藏
山口出張所	山口縣美彌郡山陽無煙鑛業所	大嶺 八	新野重雄

## 訂 正

一月號所載石炭採掘鑛業權移轉欄中新舊鑛業權者ハ組違ヒニ付訂正ス 即チ左ノ如シ

新鑛業權者	舊鑛業權者
樋口清八	中島鑛業株式會社
關川熊生外一名	中島剛太
原英二	中島鑛業株式會社
榎井傳三	原英二
樺太探炭鑛業株式會社	關川熊生

三菱鑛業株式會社	三井鑛山株式會社
中垣隆晴外一名	佐藤万太郎
木村雄一	福岡壽郎
黒川尙夫	吉田幸
東邦炭鑛株式會社	三菱鑛業株式會社
西山眞平外一名	花元久作
竹ノ迫炭鑛株式會社	吉本眞一
全	全
全	全
沖ノ山炭鑛株式會社	古谷博美



春立ち初めて寒氣愈よ薄らぐと雖も世界政局は益々緊迫の度加はり海洋の波騒ぐ。戦時議會も國民の負荷に副ふ可く眞摯の質疑を重ね、審議も快調を續け眞に、舉國一致總力を擧げて、前古未曾有の時艱突破に一途邁進、頼もしき事ではある。

本月號の表装は社長山本光羊畫伯執筆の雄渾雅趣に富んだ富嶽を拝願ひしました。

號には特に「獨逸の經濟指導原理は日本神道の法理に通ず」の貴重なる論策を賜はつた業者を裨益する所不抄再讀詠味すべき文獻である。讀者と共に御厚意を拜謝する。

本會も昨年十月日炭の創立に順應し、機構擴大に伴ひ事務も煩雜となつたので、地許炭坑との連絡を一層密にし利便を圖るべく從來の東京出張所、肥前支部の外更に今回山口及縣下の六ヶ所に出張所を新設し二月一日より事務を開始した、精々提携を密にし充分互助會機能を發揮せられし事を望む。

## 互助會報・第六卷第二號

購 讀 料

一冊 金參拾錢 郵稅共  
半年分 金壹圓八拾錢同上  
一年分 金參圓六拾錢同上

料金は前金の事

昭和十六年二月廿四日印刷納本  
昭和十六年二月廿八日發行

若松市本町三丁目

石炭鑛業互助會

發行人 風戸道康

編輯人 森 六郎

若松市老松町三丁目

印刷所 森 印刷所

若松市老松町三丁目

印刷所 森 印刷所

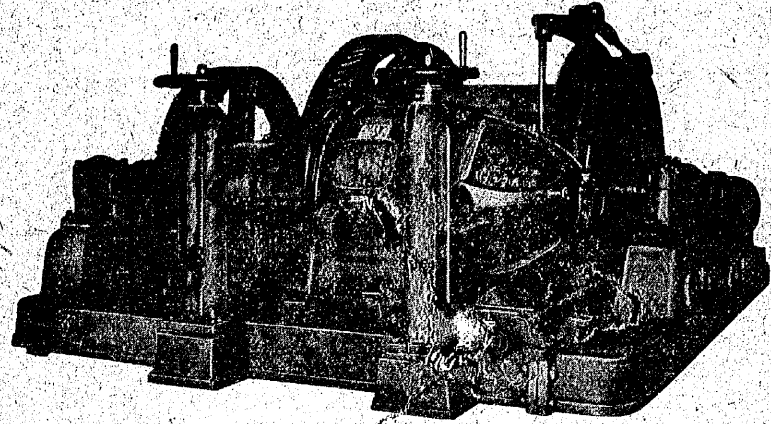
福岡縣若松市本町三丁目

發行所 石炭鑛業互助會

電話 三三六九

電話 三三六九

鑛山用諸機械設計製作



營業種目

製作部	捲揚機	碎石機	輸送機	炭送風機	排金物	電線	ワイヤロープ	各種電動機	ベアリング	バルブ、コック	レール、ナット	ボール、ナット	ゴム	サクシヨンプラス
	揚送機	礦送機	車送機	金風機										
販賣部														

以上多數在庫有乞照會

福岡機械製作所

福岡市上東町17  
電話東2920番



東洋製綱株式会社

ワイヤロープ

大阪市西區立賣堀

代理工場

東 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株  
 京 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式  
 製 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會  
 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社  
 東 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株  
 工 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式  
 事 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會  
 業 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社  
 機 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株  
 械 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式  
 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株 株  
 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式 式  
 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會 會  
 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社 社

營業課目

ワイヤロープ、電気機械、捲揚機  
 ホンフ、其ノ他一般諸機械一式  
 チェーン、ボールベアリング、ヘルト  
 三輪車、電気工事、塗装工事

營業品目

キャリトモーター  
 コールドリル  
 電気捲揚機  
 デーリピン 唧筒  
 空気圧縮機  
 ロックドリル  
 ピックハンマー  
 ピックアップ  
 排送風機  
 ヒツパネラ  
 エヤーホース  
 サクシヨシホース  
 各種パツキング  
 全鋼製チエンプロック  
 工作機械及工具

鐵工部開設

キャリヤー・打拔チェン・炭車金物

鑄造品・鍛工品・外一般製作



守谷商會九州支店

小倉市室町一八番地  
 (小倉郵便局私書函第四十二號)  
 (電話)小倉 2831・2832・2833 番

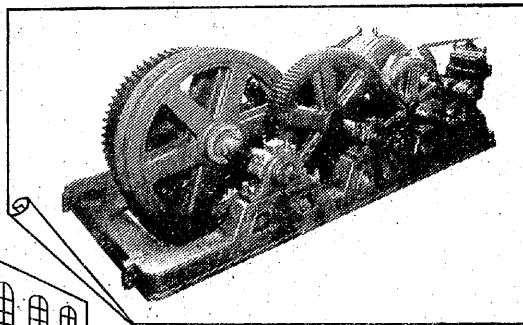
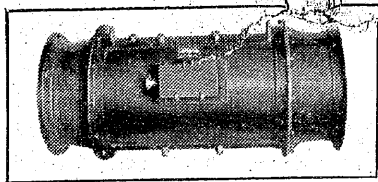
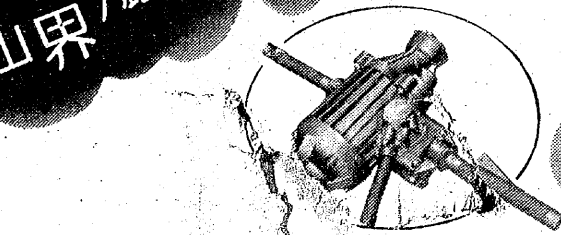
奈須野機械製作所九州出張所  
 エーゼーゴム洋行九州出張所  
 O.K式コールドリル500型發賣元

カバ シマ  
 花 島 商 會

福岡市上呉服町五番地  
 電話東③二四八〇・二四八一番

礦山界、麒麟兒!! 好評噴々!!

株式會社千代田製作所



石炭礦山用電機機械専門製作

刊主録進呈

本店 大阪市西淀川区佃町一三一七  
電話(45)代表七三五八番  
東京出張所 東京市神田区錦町三丁目一番地  
電話神田(25)三〇八一番  
福岡支店 福岡市上小山町一二番地  
電話 東(2)五〇五六番

最高級 最高馬力用 日本一品質  
印ブレキライニング

(在庫豊富)



ブレキライニングは

世界第一の評ありし英國フェロードブレキライニングの製法と全様の動力機製品にて我國最優秀の品にして現日本の他社製ブレキライニングは其の殆ど全部が手織(人力)製なるに本マコト印は最新高圧の動力機械機織製品なれば其壓縮度の緊密なる事到底手織製品の企て及ばぬ物にて特に大巾物と厚身の物に於いては其差甚だしきものあり依つて高馬力の捲揚機クレンの如き機械の摩擦板としては本品の右に出る物なし。

本品は故に原料石綿及真鍮の量は手織製品に比して約35%多量に要するを以つて製品の比重又極めて高し、従つて本品は他社品に比して價格又一見非常に高價なるも其耐久力の絶大なる事により最大の經濟的能率の逸品たる事を確信を以つて推奨するものなり乞ふ御使用を。

最高級のブレキライニング 本品の右に出る物なし

印 コー マチツクホース  
アマノ式 ベントノスリーブ 發賣元  
アマノ式 C.T. プロテクター

マコト護謨工業所

代表者 天野靖市郎

福岡市橋口町四六 (私書函箱四七八號)

電信略號受信フクオカマコトヨム 發信マ又はレコト  
電話西②4678番 振替兩四16695番

資本金 壹億五千萬圓

# 安田銀行

九州若松支店

若松市本町四丁目七百八拾番地

電話 長一六六五五二六五

振替口座 福岡三三二四番

昭和十二年四月七日第三種郵便認可（毎月一回五千圓發行）  
昭和十六年二月二十四日開始營業  
昭和十七年三月二十八日發行

石炭鑛業互助會報

發行所 若松市本町三丁目

石炭鑛業互助會